

科目名		スポーツと科学					
教員名		田原 麗衣					
科目No.	120630010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 オンライン(前期)
〔テーマ・概要〕 本科目では、運動・スポーツとくにそのパフォーマンスに着目し、自然科学的なアプローチをすることで、より理解を深めることを主たる目的とする。スポーツパフォーマンスを構成する・支える要素は、「スキル・フィットネス・モチベーション」といわれ、日本でも古来から「心・技・体」といわれるように、世界共通である。また、近年注目されるようになってきた「戦術・戦略」などの要素がある。これらの要素をもとに、スポーツパフォーマンスを支える科学について授業を展開、検証する。 運動・スポーツを題材とし、それぞれの要素を科学的に検証し、要素還元論的な考察をする過程を通して、合目的に活動するための教養を高めてもらいたい。							
〔到達目標〕 ①スポーツ・運動に関する科学的根拠を理解でき、スポーツ関連諸科学の学問内容や方法が理解できる。 ②自己やスポーツ・運動を客観的に把握・分析し、論理的に説明できる。さらに、様々な知識、原理原則等を活用できるようになる。 上記を到達目標とし、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			シラバスからあらかじめ授業内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。		60	
第2回	スポーツパフォーマンスを構成する要素： スポーツパフォーマンスを構成する要素や体力トレーニングの理論について把握する。			【予習】スポーツパフォーマンスに影響を及ぼしている要素を考えてみる。 【復習】自身の体力向上のためのトレーニング計画を立ててみる。		60	
第3回	スポーツと体力科学： ピリオダイゼーション（期分け）とトレーニングプログラミングについて把握する。			【予習】トレーニング計画を立てる上で注意するべき事項について考えておく。 【復習】スポーツにおけるピリオダイゼーション(期分け)について、各期の課題を説明できるようにする。		60	
第4回	スポーツと体力科学： 各機能を高めるためのトレーニング方法についての理論や方法を理解する。			【予習】現在（過去）行っている練習で高められる機能には、どのような要素があるか考えてみる。 【復習】目的に応じたトレーニングの方法を説明できるようにする。		60	
第5回	スポーツと体力科学： ウォーミングアップやクールダウンの意義や正しい方法を理解する。 熱中症や正しい水分補給についての理解を深める。			【予習】ウォーミングアップやクールダウンの意義を考えてみる。 【復習】自分が行うウォーミングアップやクールダウンの計画を立ててみる。		60	
第6回	スポーツと技術の科学： 運動やスポーツにおける技術の定義や技術における動作の局面構造と運動協調について把握する。			【予習】運動・スポーツにおける技術的な上手さ（巧さ）とはどのような状態を指すか考えておく。 【復習】技術における動作の局面構造を説明できるようにする。		60	
第7回	スポーツと技術の科学： スポーツの技術に関する能力段階と技術トレーニングについて理解する。			【予習】運動学習の段階について調べておく。 【復習】技術に関する能力段階に応じた、技術トレーニングについて計画を立ててみる。		60	
第8回	スポーツと心理学： メンタルトレーニングの基礎理論とアセスメントについて把握する。			【予習】スポーツにおいて用いられているメンタルトレーニングについて調べておく。 【復習】自身のメンタルアセスメントを元に、自身の状況を分析してみる。		60	
第9回	スポーツと心理学： スポーツにおけるリラクセーションや様々なメンタルトレーニングプログラムについて把握する。			【予習】メンタルトレーニングプログラムについて調べておく。 【復習】授業で扱ったリラクセーション法やメンタルトレーニングプログラムを実践してみる。		60	
第10回	コンディショニングの科学： スポーツにおけるコンディショニングについて把握する。リカバリーの方法として、栄養面からのアプローチや体のケアの方法などを理解する。			【予習】最大限のパフォーマンス発揮のために必要な要素について考えておく。 【復習】自身の重要な場面（スポーツに限らなくても良い）に向けたコンディショニングについて考えてみる。		60	
第11回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおける戦術・戦略、作戦について基本的な理論を把握する。			【予習】スポーツにおいて、戦術・戦略がどのように活用されているか調べてみる。 【復習】戦術・戦略や作戦について具体的に説明できるようにする。		60	
第12回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について把握する。			【予習】スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について、具体例を調べておく。 【復習】より有効にデータを活用し、戦術・戦略を立てる方法を考えてみる。		60	
第13回	スポーツとデータの活用と展開：スポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。			【予習】データを活用している身近な例を考えておく。 【復習】今後のスポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。		60	
第14回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容をまとめ、学修内容を確認する。(到達度確認テストを実施する場合もある)			【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】レポート作成を通して自身の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。		90	
〔授業の方法〕							

この授業はオンデマンドで実施する。

各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。

授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生とのコミュニケーションを図り、出来る限り双方向の授業を展開する。

ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

課題提出状況 60%、平常点（授業への参加状況を含む） 40% により総合的に評価する。

履修者数などの状況によっては最終週に到達度確認テストを実施する場合がある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識や先修科目は特に必要としない。

関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の実技科目がある。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料は授業内に配布・掲示する。

〔参考書〕

参考書は授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に、実施場所にて受け付ける。

その他の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		スポーツと文化					
教員名		稲葉 佳奈子					
科目No.	120640010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 本科目は、スポーツの文化的特質や固有の意義に着目する。スポーツ文化の成立と発展プロセス、スポーツの多様なあり方、スポーツが直面する課題を具体的事例から示し、歴史や社会的背景と関連させて概説する。 講義および各回のテーマに関する考察を通じて文化的側面から運動・スポーツへの理解を深め、視野を広げることを目指す。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ① スポーツが固有にもつ意義について、具体的現象と社会的背景との関連から理解することができる。 ② スポーツの文化的特質について、学問的知識にもとづいて論理的に考察および表現することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、必要な予備知識等についての説明			シラバスの内容を確認する。		60	
第 2 回	スポーツとは何か			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 3 回	近代スポーツの成立と発展			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 4 回	ルールの変遷と背景			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 5 回	スポーツとオリンピック			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 6 回	スポーツとメディア			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 7 回	スポーツの商業化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 8 回	スポーツとドーピング			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 9 回	日本のスポーツ文化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 0 回	スポーツと社会問題			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 1 回	スポーツとテクノロジー			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 2 回	これからのスポーツ文化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 3 回	到達度の確認			到達度が足りないと自覚された箇所を重点的に復習する。		60	
第 1 4 回	フィードバックとまとめ			学修内容を総合的にふりかえる。		60	
〔授業の方法〕 ○ PowerPoint 等のスライド資料を提示して講義する。 ○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。 ○ 各回の講義内容に即した授業内課題を指示する。							
〔成績評価の方法〕 授業時に取り組む課題（30%）、到達度確認課題（70%）をもとに総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- 学問的知識と具体的現象との関わりが適切に理解できているか。
- 授業内容の理解をふまえた論理的な考察・表現ができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として講義科目「スポーツと科学」、「健康と科学」、「スポーツと社会」、演習科目「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」がある。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料等は Course Power を通じて配布する。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		スポーツと社会					
教員名		岡田 光弘					
科目No.	120650010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 本科目は、運動・スポーツと社会との関わりについて理解を深めることを主な目的とする。 運動・スポーツ、および、様々な社会構造について、概念的な理解を深めることで、運動・スポーツを実践し、享受し、支えることの社会的な意義を理解し、自らその環境を活用するための教養を高めることを目指す。							
〔到達目標〕 ①スポーツの社会的側面について理解でき、関連する諸科学分野の学問内容や方法を理解できる。 ②スポーツに関する政治・経済などの社会の仕組みと動きを理解し、その活用について考えることができる。 上記2点を到達目標とし、DP2（教養の修得）、DC3（課題の発見と解決）の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			シラバスを読み、あらかじめ授業内容や全体像、進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	スポーツについて概念的に把握する。			スポーツ・ゲーム・プレイについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第3回	社会学について、概念的に把握する。			全体社会や社会構造について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第4回	質的な社会学について、概念的に把握する。			社会の中のスポーツ実践について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第5回	近代スポーツの成立と発展について、概念的・歴史的に把握する。			近代スポーツの成立と発展について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第6回	メディア化するスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			メディア化するスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第7回	消費文化としてのスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			消費文化としてのスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第8回	スポーツと政治・権力について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと政治・権力について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第9回	スポーツとジェンダーについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツとジェンダーについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第10回	スポーツする身体について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツする身体について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第11回	スポーツと教育について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと教育について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第12回	スポーツと地域社会について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと地域社会について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第13回	職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第14回	まとめの講義			これまでの学修を総合的にふり返る。		60	
〔授業の方法〕 ・各回のテーマに即した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いながら講義形式で授業を進める。 ・毎回授業内でレポートを課する。 ・授業の進捗によって、予習内容について報告（プレゼンテーション）を求めるなど、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕 「学期末試験」「期末レポート」は実施しない。 各回のレポート（受講状況を含む）60%、 最終回まとめのレポート40%をもとに、総合的に評価する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. また、次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。 ・キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の演習科目がある。
〔テキスト〕 改訂版『よくわかる スポーツ文化論』、井上俊・菊幸一編著、ミネルヴァ書房、2500 円
〔参考書〕 『現代メディアスポーツ論』、橋本純一編、世界思想社、2300 円
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 CoursePower でのやりとりに加えて、木曜日の出講時（2 時限語.3 時限後）には、体育館の講師室でも受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		健康と科学					
教員名		境 広志					
科目No.	120660010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 オンライン(前期)
〔テーマ・概要〕 生涯を通じて健康に過ごすためには、大学生のときから健康について考え、正しい知識を身につけておく必要があります。健康づくりには運動、栄養、休養(睡眠)の3要素が欠かせません。本講義では、健康を維持・増進するための3要素と生活習慣病、感染症、喫煙、飲酒などの健康に関する科学的根拠に基づく知識について学びます。							
〔到達目標〕 ① 健康づくりの必要性を認識し、科学的根拠に基づいた健康の維持・増進に関する知識について理解し、それらを自己の健康実現と結びつけて考えることができる。 ② 健康の維持・増進を目的としたライフスタイルを安全かつ効果的に実践するための方法を科学的に説明できる。 上記2点を到達目標とし、DP2(教養の修得)、DP2(課題の発見と解決)の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション 1. 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題レポートについて、評価基準の説明 2. 講義内容に関するミニテストの実施			【予習・復習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	運動による健康の維持・増進 1. 運動不足による体への影響 2. 過剰な運動による体への影響			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第3回	運動の効果と実践 1. 運動の種類と効果 2. 運動の環境づくりと実践			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第4回	生活リズムと食事 1. 規則正しい食生活 2. バランスの良い食事			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第5回	ダイエットと食事 1. 身体に与える影響 2. 健康的な体重の維持・管理			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第6回	スポーツと食事 1. スポーツ選手の食事 2. サプリメントの使用と効果			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第7回	睡眠と健康 1. 睡眠とは 2. 睡眠が身体に与える影響			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第8回	快適な睡眠のために 1. 睡眠への工夫 2. 休養のすすめ			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第9回	生活習慣病とその予防 1. 生活習慣病とは 2. 生活習慣病の予防			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第10回	感染症とその予防 1. 感染症の問題 2. 感染経路と予防・対策			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第11回	喫煙と健康 1. たばこの依存性 2. 身体に与える影響 3. 喫煙への対策			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第12回	飲酒と健康 1. 飲酒の健康影響(急性作用) 2. 飲酒の健康作用(長期的作用) 3. 正しいお酒の飲み方			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第13回	ストレスとその対処 1. ストレスとは何か 2. ストレスへの対処法			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第14回	まとめ 1. 全体のふりかえり 2. 期末レポートの紹介			【予習】作成した期末レポートをふりかえる。 【復習】他の受講生の期末レポートについてふりかえる。		120	
〔授業の方法〕 基本的にはオンデマンド形式で行います。授業日の朝8時に授業を配信しますので、1週間以内に受講(視聴)してコースパワーにふりかえりを提出してください。							
〔成績評価の方法〕							

以下の基準で総合的に評価します。 ・授業への参加・取組状況など(ふりかえりの提出状況と内容を含む)：40% ・期末レポート：60%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・ 毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。 ・ キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、健康・スポーツ科目の「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」がある。また、法学部生は、学部開講の「健康政策論」を併せて履修することが望ましい。
〔テキスト〕 テキストは特にありません。授業内で『わたしたちのからだと健康』（医学映像教育センター）の視聴覚資料(DVD)を使用します。
〔参考書〕 参考書は授業中に適宜指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。
〔特記事項〕

科目名		現代社会と哲学					
教員名		関口 浩					
科目No.	120710310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 今世紀の始まりの頃から、サステナビリティ、持続可能性ということが、主に企業経営のあり方の問題として盛んに論ぜられ、今に至っている。その際、企業が単に利益をあげることをのみを目指すのではなく、さまざまな社会的責任をも果たしてゆくべきだ、というような議論が行われてきた。この講義では、サステナビリティということ、そういう企業経営といった範囲にとどまらず、より広い領域にひろげて考えていきたいと思う。究極的には、われわれすべて、人類全体の問題として考えていきたいと思う。地球全体の気候変動や環境汚染の問題は、まさに今後の人類の存続がかかった問題であるが、そういうことを哲学的に考えていきたいと計画している。							
〔到達目標〕 現代という時代のいちばん深いところを洞察しようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした＜事柄＞を共に経験してもらいたい。さらに、履修者各々もまた、自分自身でそのような＜事柄＞を思索できるようになってもらいたいと思います。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	サステナビリティ議論の歴史。 ローマ・クラブ『成長の限界』から SDGs へ。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 2 回	サステナビリティの現状。 危機を技術的に克服する努力。サーキュラー・エコノミーについて。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。またこれまでの 2 回の授業を通じて問題となっていたサステナビリティの問題を、より身近な事柄としてあらためて考えること。		6 0 分	
第 3 回	技術文明の本質について歴史的考察。 17 世紀の科学革命ーガリレイとデカルト。自然の支配。全面的合理化の過程（マックス・ヴェーバー）。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 4 回	技術文明への疑問。 科学への疑問——アインシュタインとオッペンハイマー。脱成長論者の批判——有限の地球環境と無限の成長との矛盾を指摘。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 5 回	知性への疑問。 旧約聖書に記された「バベルの塔」の逸話のように、古代より人間の知性の行き過ぎを咎める教訓が数多くある。知性に関するそうした古代の英知について検討する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 6 回	神による人間知性の限界付け。 キリスト教神学におけるヒューマニズムに対する批判。アウグスティヌスの自由意志論、ルターの原罪論。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 キリスト教神学に関して不明な点は各々が資料を調べて理解すること。		6 0 分	
第 7 回	神なき時代に、新たな神の兆しを求めて。遠藤周作の晩年の思索を参照して。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 8 回	自然による人間知性の限界付け。 ルソーの「自然へ帰れ」。ストア学派の「自然に従え」。老荘思想の自然観。東洋倫理としての〈知足〉。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 9 回	芸術について。合理化する思考とは別なる思考。 脱成長論者の芸術論。ハイデガーの技術論中の芸術論。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 0 回	理性の狡知（ヘーゲル）について。 科学者や脱成長論者の警告にもかかわらず、経済成長は止まらないし、科学の進歩も止まらない。全面的合理化の過程は、いかにしても、止まらない。なぜ止まらないのか。			予習として、すでに配布したアインシュタインとオッペンハイマーの資料を再度熟読すること。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 1 回	自然の支配の次に来るもの、人間存在自体が合理化されること。 死への欲動（フロイト）は理性的な冷静さ。ストレス社会の現実。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 2 回	少子化の問題。少子化の現状と対策。 オルナ・ドーナト『母親になって後悔してる』。			予習として、前回配布のテキストをもう一度読んでくること。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 3 回	近代化以前の社会におけるサステナビリティ。 江戸時代から続く農民と職人との生活について民俗学の調査を参照しつつ理解を深める。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 4 回	今学期の講義全体について再確認。			予習として、今学期の講義全体を回想すること。		6 0 分	
〔授業の方法〕 絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていききたいと思います。							

〔成績評価の方法〕 定期試験期間中に試験を行います。課題についてのレポートを書いてもらいます。80% 自主的に提出するレポートなど、平常点。20%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 いかなる予備知識も求めません。 関連科目は「哲学の基礎」。
〔テキスト〕 とくに定めません。（毎回、資料を配布する）
〔参考書〕 授業時間中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問等は授業前・授業後に受け付けます。 またメールでの質問にも応えます。
〔特記事項〕

科目名		現代社会と倫理学					
教員名		佐藤 雅男					
科目No.	120710410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 〔テーマ〕 混乱状況からの出発 〔概要〕 近代日本を代表する文学者や思想家を取り上げ、私達が現代社会を生きる意味を考える。 福沢諭吉は、『文明論之概略』『緒言』で、日本人が、異常な過渡期を生き抜かざるを得ない理由で、自らの過去の経験によって、新たに学び知った文明を照合することが出来ると言った。そこには、眼前の否定的な混乱状況を、逆に、「今の一世を過ぐれば、決して再び得べからざる」ような「好機」と見なす精神構造がある。 こうした状況は、現代社会にも存続し、私達は混乱の渦中で、自己の生活経験を整序しなければならない。そこで問題になるのが、人生の意味や価値であり、倫理学の根本は、「如何に生きるべきか」である。 近代日本を先導した人達の思想表現の特質を検討しながら、現代社会における人間について考えてみたい。(DP2-DP5)							
〔到達目標〕 〔到達目標〕 - 近代日本を先導した文学者や思想家の文章を読みながら、その言葉の意味を考えることで、今を生きる私達の指針を形成する。 - 物事を多角的にとらえる発想を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	授業のガイダンス。 近代日本の特質。			授業のテーマと全体像を描く。		60	
第 2 回	明治維新と文明開化。			歴史的な時代背景と国際情勢を理解する。		60	
第 3 回	啓蒙思想－福沢諭吉。			「独立の気力」について考える。		60	
第 4 回	自由民権思想－中江兆民。			「東洋のルソー」と言われた人物像を把握する。		60	
第 5 回	キリスト教－内村鑑三。			「無教会主義」の意味を把握する。		60	
第 6 回	国民道徳－教育勅語。			中味の再検討をする。		60	
第 7 回	東洋の美－岡倉天心。			「自我の顕現」の意味を把握する。		60	
第 8 回	浪漫主義－北村透谷。			「内部生命」の意味を把握する。		60	
第 9 回	自然主義－田山花袋と島崎藤村。			日本特有の「私小説」の意味を把握する。		60	
第 1 0 回	夏目漱石の文明論。			「内発的開化」の意味を把握する。		60	
第 1 1 回	森鷗外の文明論。 下田歌子や与謝野晶子の思想。			「利他的個人主義」や「貞操論」の意味を把握する。		60	
第 1 2 回	西田幾多郎の哲学。			「純粹経験」の意味を理解する。		60	
第 1 3 回	和辻哲郎の倫理学。 レポートの書き方			「間柄的存在」の意味を理解する。		60	
第 1 4 回	小林秀雄の批評。 レポートの書き方。			「宿命の人間学」の意味を理解する。		60	
〔授業の方法〕 毎回の授業に、資料を配布する。それを基に授業を進める。							

〔成績評価の方法〕 授業への積極的参加（10%）。最終回の到達度の確認レポート（90%）で評価する。授業中に配布した資料を引用して、1200 字程度のレポートを書いてもらう。書き方に関しては、一回目の授業で概略を言うが、年末年始の頃の授業で、より詳しく説明する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 資料を配布する。
〔参考書〕 『述語集Ⅰ』『述語集Ⅱ』（中村雄二郎、岩波新書） 『日本の思想』（丸山真男、岩波新書） 『墮落論』（坂口安吾、新潮文庫）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		芸術への招待<1>					
教員名		西釋 英里香					
科目No.	120710610	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 オンライン(前期)
〔テーマ・概要〕 本講義では、西洋芸術音楽（クラシック音楽）のおもに18～19世紀の歴史を、ピアノ音楽をとりあげながら考察する。あわせて、ピアノという楽器の発展のプロセスも紹介する。							
〔到達目標〕 DP2-1（教養の修得）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ●西洋音楽史における代表的な作曲家とその作品について説明できる。 ●楽器及び音楽の形式（構成）について理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	クリストフォリによるピアノの発明 1700 年頃、バルトロメオ・クリストフォリ（1655-1731）がピアノを発明した経緯を学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第2回	ドイツへの伝播～ジルバーマンとバッハ ドイツのゴットフリート・ジルバーマン（1683-1753） がピアノを製造した経緯、そして彼とヨハン・セバスチャン・バッハ（1685-1750）との関係について学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第3回	モーツァルトとピアノ その1 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-91）とゆかりのあるピアノ製作者、ヨハン・アンドレアス・シュタイン（1728-92）やアントン・ヴァルター（1752-1826）が製作したピアノについて学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第4回	モーツァルトとピアノ その2 モーツァルトのピアノ音楽（ソナタや協奏曲）を観賞する。			授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第5回	ハイドンとピアノ ヨーゼフ・ハイドン（1732-1809）のピアノ音楽を鑑賞するとともに、18 世紀後半にイギリスで製造されたピアノ（ブロードウッドなど）について学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第6回	ベートーヴェンとピアノ その1 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827）が使用したピアノと、彼の作品との関係について学ぶ。おもにピアノ・ソナタを鑑賞する。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第7回	ベートーヴェンとピアノ その2 前回に引き続き、ベートーヴェンのピアノと彼の作品との関係について学ぶ。ピアノ・ソナタのほかに変奏曲も鑑賞する。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第8回	シューベルトとピアノ フランツ・シューベルト（1797-1828）のピアノ音楽を鑑賞する。			授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第9回	ショパンとピアノ その1 フレデリック・ショパン（1810-49）とゆかりのあるピアノ（エラールやプレイエルなど）について学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第10回	ショパンとピアノ その2 ショパンのピアノ音楽を観賞する。			授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第11回	シューマンとピアノ ローベルト・シューマン（1810-56）のピアノ音楽を鑑賞する。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第12回	ブラームスとピアノ ヨハネス・ブラームス（1833-97）のピアノ曲を鑑賞し、彼とゆかりのあるピアノ（ヨハン・パプティスト・シュトライヤーなど）について学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第13回	リストとピアノ その1 1853 年に設立されたピアノ・メーカー（スタインウェイ、ベヒシュタインなど）のピアノと、フランツ・リスト（1811-86）との関係について学ぶ。			授業でとりあげた楽器や作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
第14回	リストとピアノ その2 リストのピアノ音楽を鑑賞する。			授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、音楽を鑑賞する。		60	
〔授業の方法〕 ●「オンデマンド型（録画提供）」で授業を実施する。授業方法の詳細については、授業開始の2 週間程前にポータル及び CoursePower にて告知する。 ●授業内容を理解しているかどうかを確認するきわめて簡単なテストを毎回実施する。 ●学期末レポートでは、授業でとりあげた作曲家とその作品の一部を選んで、論じてもらう。							

●授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。
〔成績評価の方法〕 平常点（課題の提出状況）70％及び学期末レポートの成績 30％により評価する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ●授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を獲得し、明確に説明できる。 ●西洋クラシック音楽について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 楽譜を読めることが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。 西洋クラシック音楽を中心に扱うことを了承されたい。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 授業中に適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 電子メールで受け付けます。メールアドレスは講義時に告知します。
〔特記事項〕

科目名		芸術への招待＜2＞					
教員名		人見 伸子					
科目No.	120710620	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 オンライン(前期)
〔テーマ・概要〕 19～20 世紀初頭の西洋美術史には、それまでの伝統や価値観に新風をもたらす芸術家が次々に登場した。この授業では、そうした芸術家が挑戦した「伝統」とは何だったのか、彼らがもたらした「革新」が次の世代にどう伝えられたかという点に注目しながら、その芸術を検証していく。毎回提示されるキーワードに注目しながら、それぞれの芸術家や美術作品に関心をもち、理解を深めてほしい。							
〔到達目標〕 1. 近代美術史の流れを知り、要となる芸術家や作品への理解を深める。 2. 現在開催されている展覧会を訪れ、実際の作品に触れる機会を設け、報告レポートを書く。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	授業の概要 / 近代美術の流れ ・授業計画やテキストについて説明する。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60 分	
第 2 回	アングルと新古典主義 ・19 世紀初頭にフランスで活躍したアングルと、古代美術復興の新たな動きについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 3 回	ジェリコーとロマン主義 ・新古典主義と対峙するロマン主義、その流れの中で当時の事件にも敏感に反応したジェリコーについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 4 回	フリードリヒ：ドイツの風景画 ・自然と真摯に向き合って風景を描くとともに、新しい宗教画の創造を目指したドイツの画家フリードリヒについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 5 回	J.F. ミレーとバルビゾン派 ・働く農民の姿を生き生きと描いたミレーと、彼とともにバルビゾンで活動した画家たちについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 6 回	ロセッティとラファエル前派 ・イギリス・ヴィクトリア朝の美術界に新風を吹きこんだロセッティとラファエル前派の仲間たちについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 7 回	モリスと近代デザインの誕生 ・ラファエル前派 第 2 世代のモリスは、植物モチーフを用いた新しいデザインを創造した。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 8 回	モネと印象主義 ・印象派の中心画家であり、光と水の表現に生涯をかけたモネについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 9 回	ゴッホとジャポニスム ・短い生涯ながら圧倒的な存在感を放つゴッホを、日本美術との関わりから考察			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 1 0 回	ガレとラリック：ガラス工芸の革新 ・ナンシーで活躍したガラス工芸作家ガレ、およびラリックの作品とその芸術の源流について			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 1 1 回	藤田嗣治とエコール・ド・パリ ・エコール・ド・パリの中心画家として、国境を越えて活躍した藤田嗣治について			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 1 2 回	ピカソとキュビズム ・20 世紀初頭、美術の新時代を築いたキュビズムとその代表画家ピカソについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 1 3 回	カンディンスキーと抽象絵画 ・ミュンヘンで活動したグループ「青騎士」と代表画家カンディンスキーについて			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
第 1 4 回	マグリットとシュルレアリスム ・マグリットとシュルレアリスム（超現実主義）の展開について			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。		60 分	
〔授業の方法〕 Course Power を利用して毎回の授業レジュメを配信。ビデオ視聴後にアンケートに回答する形式のオンライン授業を行う。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必須である。							
〔成績評価の方法〕 中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）、毎回のアンケート回答に基づく平常点（20%）を総合して評価する。単位認定には、3 分の 2 以上の出席と 2 回のレポート提出が必須条件である。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
高階秀爾監修 『[カラー版] 西洋美術史』 美術出版社
ISBN4-568-40064-3

〔参考書〕
授業の中で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Course Power Q&A で受け付ける。

〔特記事項〕
オンライン授業

科目名		芸術への招待<3>					
教員名		人見 伸子					
科目No.	120710630	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 オンライン(後期)
〔テーマ・概要〕 古くから美術作品の誕生には、実制作者としての芸術家のみならず、注文主あるいはパトロンが重要な役割を果たしてきた。ルネサンス期にはフィレンツェのメディチ家、ローマ教皇ユリウス 2 世などが芸術活動を奨励し、優れた芸術家たちを育ててきた。近代以降になると、王侯貴族や教会に代わって、財界人などの個人コレクターが自分の美意識に従って作品を蒐集し、ユニークなコレクションが輩出した。そして現代では、芸術活動に関心のある企業や地域社会の中に、そうした役割を担うものが育ちつつある。 この授業では、ルネサンス以降の世界の優れたコレクターとその収蔵品、美術館を紹介しながら、コレクション形成の過程を検証するとともに、企業の芸術支援や現代美術を活かした地域の活動についても考察する。美術館はコレクションを収蔵・展示するための単なる箱ではない。来館者に知的な刺激を与え、再び訪れたいと思わせる魅力的な美術館とはどうあるべきか、考えていくことにしよう。							
〔到達目標〕 ① 海外や日本の代表的な美術館について、その成り立ちや所蔵作品について基礎知識を学ぶ。 ② 芸術と企業あるいは地域社会との関係を知り、アフター・コロナを見据えた今後のあるべき姿について考察する。 ② 開催中の展覧会を訪れて、実際の作品に触れる機会をつくる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	授業の概要 / 芸術家とパトロン ・芸術家を支えてきたパトロンやコレクター、美術館誕生の歴史を学ぶ。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60 分	
第 2 回	ボルゲーゼ美術館 ・イタリア、ローマにある国立美術館。個人コレクションがどのように発展していったか、その所蔵作品とともに考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 3 回	ドレスデン美術館 ・ザクセン選帝侯のコレクションを礎として、古典および新絵画館から構成されるドイツの美術館について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 4 回	ワシントン・ナショナル・ギャラリー ・ルネサンスから現代まで幅広い作品を有するアメリカ屈指の美術館のひとつ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 5 回	マウリッツハイス美術館 ・オランダ、デン・ハーグにあり、17 世紀オランダ絵画の充実したコレクションをもつ美術館について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 6 回	ウォーレス・コレクション ・ロンドン中心部に位置し、ロココの絵画や家具のユニークなコレクションで知られる美術館。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 7 回	マルモッタン美術館 / オランジュリー美術館 ・パリにある二館について、モネなど印象派のコレクションや成立を検証する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 8 回	オスロ国立美術館 ・日本でも知名度が高いムンクの作品を中心に、北欧美術について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 9 回	ホイットニー美術館 ・女性彫刻家がニューヨークに創設したアメリカ現代美術を紹介する美術館。その革新性について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 1 0 回	国立西洋美術館 ・松方幸次郎のコレクションをもとにした国立美術館で、ル・コルビュジェ設計の建物でも知られる。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 1 1 回	ポーラ美術館 ・箱根の景観に配慮した建物や幅広いジャンルのコレクションについて学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 1 2 回	DIC 川村記念美術館 ・千葉県佐倉市にあり、ロスコなど近現代の西洋美術に焦点をあてた美術館を検証する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 1 3 回	アルテピアッツァ美咲 ・かつて炭鉱で栄えた北海道・美咲にあり、閉校した小学校の校舎や敷地を利用。地元出身の安田侃の彫刻作品と出会える場となっている。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 1 4 回	国際芸術祭と美術館の未来 ・世界各地あるいは日本全国で展開する芸術祭について、コロナ禍の現状と今後の方向性について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
〔授業の方法〕 Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、ビデオを視聴する形式で、オンライン授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答してもらう。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出。期末には課題レポートの提出が必須である。							
〔成績評価の方法〕							

成蹊教養カリキュラム

24/2/16 14 時 23 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。
単位認定には、3 分の 2 以上の出席と 2 回のレポート提出が必須で条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

授業時に随時、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

Course Power Q&A で受け付けます。

〔特記事項〕

オンライン授業

科目名	カルチュラル・スタディーズ<1>						
教員名	清水 均						
科目No.	120710710	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 「カルチュラル・スタディーズ＝文化研究」はその根底に「文化を特定の歴史や社会状況における構築物としてとらえる問題意識」を持つ（本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店 2002 年 2 月）。即ち、「文化」というものを静態的なもの（あるいは権威的なもの）として捉えるのではなく、時代や人間の営みのダイナミズムの中で生成する動態的なものとして捉えるということである。それゆえ、私たちは「文化」を特定の作品（名作）や高尚な趣味（エリートによる高級文化）に限定するのではなく、人々の「生活様式の総体＝私たちが日々暮らしている生活のあり方そのもの」として捉える考え方が必要とされる。 かつては「サブカルチャー」とみなされ、文字通り「サブ」扱いられていた（ポジティブにもネガティブにも）アニメやマンガといった文化領域が、メインカルチャーあるいはポップカルチャーとして「日本を代表する文化」という扱い方をされるようになって久しい。「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされるが、特に、私たちの日々の営みと地続きに存在する「サブカルチャー/ポップカルチャー」は、意識的にも無意識的にも、あるいは好きでも嫌いでも、私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであるといえ、私たちは嫌でもその強い影響下にあるといえる。その一方で、そうした文化環境にあって「文学」は「文学離れ」という一括りの元でその地盤沈下がたびたび指摘されるが、では、現代の「文学」は「サブカルチャー/ポップカルチャー」から疎外された存在（＝無関係）でいられるのであろうか？ 本講座では、「サブカルチャー/ポップカルチャー」を中心とする現代の文化状況を「カルチュラル・スタディーズ」の視点から俯瞰すると同時に、そうした文化状況における「文学」の立ち位置を、主に村上春樹において検証することとする。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）並びに DP3（課題の発見と解決）を実現するために以下の点を到達目標とする。 ①日本の現在の文化環境についての概要を知ることによって、現代人である私たちが、今どのような世界に存在しているのかを把握できる。 ②現代社会が戦後、特に高度経済成長期とバブル期を経てどのように形成されてきたかについて、主に「文化」の視点によってその歴史観を説明することができる。 ③私たちが生きる現代にあって、自らが他者や社会とどのように関わりながら生きていけるのかということのヒントを得ることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	序：授業ガイダンス及びイントロダクション (1) 授業ガイダンス 授業内容、授業の進め方、成績評価等、この授業の概要を説明する。 (2) イントロダクション（導入） ①カルチュラル・スタディーズ：「文化」を研究するとは ②時代の分岐点を把握する			(予習) ・授業概要、授業計画について、事前にシラバスを確認しておく。 ※授業で使用する資料等を記載した詳細なコマシラバスを「第 1 回」の授業開始前に提示するので内容を確認しておく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 2 回	序：授業ガイダンス及びイントロダクション (2) イントロダクション（導入） ③テレビ CM の表現 ④キャッチコピーの変遷 I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 ＊前提知識：高度経済成長とその終焉－高度経済成長とはどのような時代だったのか			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 3 回	I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 (1) 流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性 ・高度経済成長期前後におけるフォークソングの歌詞の変容			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 4 回	I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 (2) 文化的ツールの変遷（ウォークマンの登場） (3) マンガ表現（『タッチ』を中心に）			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 5 回	I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 (4) 村上春樹『風の歌を聴け』 (5) テレビドラマ『岸辺のアルバム』の問題性			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 6 回	II、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い ＊前提知識：バブルとその崩壊 (1) バブル期の村上春樹			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 7 回	II、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い (2) 女性作家（吉本ばなな・山田詠美）の時代性			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。		60 分～90 分	

		今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	
第 8 回	II、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い (3) 1990 年代の「言葉」 ①「応援ソング」と「詩的（人生訓的）フレーズ」の流行 ②J-POP の歌詞－浜崎あゆみ、Mr.Children	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 9 回	III、2000 年代前後－「共生」「共同体」の形成 (1) 起点としての『新世紀エヴァンゲリオン』（引き籠もり系）とその展開	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 10 回	III、2000 年代前後－「共生」「共同体」の形成 (2) 『新世紀エヴァンゲリオン』（引き籠もり系）から『デスノート』（決断主義系）へ (3) 「家族共同体」の見直しと劇場版『クレヨンしんちゃん・モーレツオトナ帝国の逆襲』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 11 回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (1) 村上春樹「エルサレム賞受賞スピーチ」と伊坂幸太郎『モダンタイムス』の時代的共振	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 12 回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (2) 村上春樹『1Q84』を読む	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 13 回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (3) 『魔法少女まどか☆マギカ』と『PSYCHO-PASS』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 14 回	V、コロナ禍前後－コロナ禍は何をもたらしたのか (1) 村上春樹「短歌・推し活・Vtuber」 (2) 「レトロブーム」という現象	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
[授業の方法] ・授業は講義形式で実施する。ただし、可能な限り受講生の考えや感想を共有するために、Course Power のアンケート機能を利用して毎回その回の授業についてのコメントペーパーの記述、提出を求め、それを翌回の授業内でフィードバックする。 ・授業で使用する資料等は事前に Course Power に掲示しておくので、各自授業時までにダウンロードしておいてほしい。			
[成績評価の方法] 平常点のみで評価する。 ○内容：「コメントペーパー」の提出状況に対して 50% ：「到達度確認レポート①」に対して 25% ：「到達度確認レポート②」に対して 25% ○「到達度確認レポート①②」それぞれの課題内容は以下の通りである。 ・「到達度確認レポート①」：各回の授業内容のまとめを記述する。(復習) ・「到達度確認レポート②」：課題内容は授業の中で提示する。(応用) 注記 1：「到達度確認レポート」は①②ともに必ず「Word」か「PDF」で提出すること。 注記 2：「到達度確認			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ①「到達度確認レポート①」：各回の授業内容を把握し、理解と考察が良くできている。 ②「到達度確認レポート②」：課題内容を適切に理解した上で「作品」等の分析と考察が行き届いている。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 特に要請するものはない。			
[テキスト] 特に指定するものはない。随時、資料を Course Power にアップロードする。			
[参考書] 適切であると思われるものについては授業時に紹介する。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]			

CoursePower の「質問」機能を利用するとともに、コメントペーパーに書かれた質問に対しては上記「フィードバックの方法」に記したように Course Power によって答える。また、メールでも受け付ける。
※メールアドレス：s10393@cc.seikei.ac.jp
また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		カルチュラル・スタディーズ<2>					
教員名		中村 香住					
科目No.	120710720	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 ジェンダー・セクシュアリティの視点からポピュラーカルチャーを考える 授業の前半では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基礎概念や歴史を解説します。特に、セクシュアルマイノリティやセックスワーカーなどの社会的マイノリティが置かれた状況について詳しく解説することを心がけます。 授業の後半では、ポピュラーカルチャー（アニメ、漫画、ゲーム、映画、演劇、小説、ポピュラー音楽、アイドル、声優、2.5 次元文化、YouTuber、VTuber など、広く大衆に広まり、主にメディアを通して商品化されている文化全般）についてジェンダーやセクシュアリティの観点から分析を行います。それによって、受講生の皆さんが、身近な社会現象に関して、自分で、ジェンダー・セクシュアリティ論の概念や視座を用いて分析ができるようになることを目指します。そのための訓練の一環として、授業中に皆さんの発言を求めたり、ディスカッションをしてもらったりすることもあるかもしれません。							
〔到達目標〕 (1) ジェンダー・セクシュアリティ論の基礎概念やフェミニズム、クィア・スタディーズの歴史について理解し、人に説明できるようになること。 (2) 身近な社会現象に関して、自分で、ジェンダー・セクシュアリティ論の概念や視座を用いて分析ができるようになること。 (3) セクシュアルマイノリティやセックスワーカーが置かれた状況を理解し、公正な社会の実現に向けて自分ができることを考えられるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション：授業全体の内容、達成目標、成績評価の方法などを確認			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 2 回	ジェンダー概念の基礎：ジェンダー、セックス、セクシュアリティなどジェンダーにまつわる基礎概念の解説			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 3 回	フェミニズムの歴史：「ジェンダー」概念を生み出したフェミニズムの歴史をたどる			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 4 回	セクシュアリティの多様性：さまざまなセクシュアルマイノリティ・カテゴリー			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 5 回	映画『トランスジェンダーとハリウッド：過去、現在、そして』鑑賞			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 6 回	クィア理論：クィア・アクティビズムの歴史とクィア・スタディーズ			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 7 回	「性の商品化」：セックスワーク、ポルノグラフィ、広告における性表現			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 8 回	「親密圏」にかかわる変化：恋愛と友情、「クワロマンティック」			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 9 回	今までの講義内容を受けて、受講生によるディスカッション			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 1 0 回	アイドルとフェミニズム：パーソナリティ消費、SNS 労働、24 時間「見られ続ける」こと			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 1 1 回	メイドカフェとフェミニズム：情動労働、「やりがいある仕事」、ポジティブな女性性の表象			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 1 2 回	「ディズニー」とジェンダー・セクシュアリティ：プリンセスとジェンダー、パークにおける LGBTQ 表象			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	
第 1 3 回	やおい／BL と百合：ジェンダーおよびクィア・スタディーズの視点から			授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心をもち、自分なりの意見を考えておくこと。		60 分程度	

第 1 4 回	全体のまとめとディスカッション	授業資料を熟読し、質問を考えたり、自分の意見を構築したりしておくこと。また、ジェンダー・セクシュアリティなど性現象にかかわるニュースや日常における出来事に関心を持ち、自分なりの意見を考えておくこと。	60 分程度
〔授業の方法〕 講義内容の要点をまとめたスライドを作成しパワーポイントで提示するとともに、スライドをまとめたレジュメを配付し、それをもとに講義形式で進めていく。体感的に理解が進むように、写真や動画も積極的に提示する。 期末レポートでは、授業で学んだ概念・理論・視点を活かした分析が行えているか、先行研究をきちんと参照できているか、文章に論理的・一貫性があるかなどを評価の主な視点とする。			
〔成績評価の方法〕 期末レポート 60%、平常点（コメントペーパーの内容および授業内での発言等）40% により総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。ジェンダー・セクシュアリティ研究の基礎概念については一から説明するようにしますので、初学者の方も安心して受講してください。			
〔テキスト〕 特になし（教科書は使いません）			
〔参考書〕 ※購入の必要なし（あくまでも参考として） 田中東子編著／竹田恵子・上村陽子・中條千晴・中村香住・東園子・有國 明弘・渡辺明日香・村上潔・梁・永山聡子，2021，『ガールズ・メディア・スタディーズ』北樹出版。 ISBN: 9784779306587 加藤秀一，2017，『はじめてのジェンダー論』有斐閣。 ISBN: 9784641150393 河野真太郎，2017，『戦う姫、働く少女』堀之内出版。 ISBN : 9784906708987 田中東子，2012，『メディア文化とジェンダーの政治学——第			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。受講生にはメールアドレスもお伝えしますので、メールでの質問・相談も OK です。 また、授業終了後に教室で質問・相談を受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		カルチュラル・スタディーズ<3>					
教員名		宮入 恭平					
科目No.	120710730	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 カルチュラル・スタディーズは、わたしたちにとって身近な文化（ポピュラー文化）に注目しながら、学際的なアプローチをとるような考察によって、日常生活の問題や課題を分析してきた。この授業では、ポピュラー文化の代表的な存在であるポピュラー音楽に焦点を当てながら、社会、経済、政治や文化との関係に着目しつつ、カルチュラル・スタディーズの視座から日常生活の問題や課題を読み解く作業を試みる。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するために、以下の3点を到達目標とする。 ・ポピュラー音楽と社会、経済、政治や文化との関連について、批判的な視座から読み解くことができる。 ・国内外のポピュラー音楽文化をとらえて、カルチュラル・スタディーズの視座を理解することができる。 ・カルチュラル・スタディーズの視座から、日常生活の問題や課題について分析することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション			シラバス、資料を確認する		60 分	
第2回	カルチュラル・スタディーズとは何か			資料を確認する		60 分	
第3回	コード化／脱コード化（メディア）			教科書、資料を確認する		60 分	
第4回	文化産業（産業）			教科書、資料を確認する		60 分	
第5回	クラブカルチャー（法律）			教科書、資料を確認する		60 分	
第6回	カウンターカルチャー（政治）			教科書、資料を確認する		60 分	
第7回	周縁からのまなざし（アイデンティティ）			教科書、資料を確認する		60 分	
第8回	ポピュラー音楽（教育）			教科書、資料を確認する		60 分	
第9回	ゴシップと人権（アイドル）			教科書、資料を確認する		60 分	
第10回	クールジャパン（アニソン）			教科書、資料を確認する		60 分	
第11回	真正性（ツーリズム）			教科書、資料を確認する		60 分	
第12回	ストリートの思想（ストリート）			教科書、資料を確認する		60 分	
第13回	日本のカルチュラル・スタディーズ（レジャー）			教科書、資料を確認する		60 分	
第14回	まとめ			教科書、資料を確認する		60 分	
〔授業の方法〕 教科書と資料をもとに、パワーポイントによる映像や音楽を用いながら講義形式で進めます。							
〔成績評価の方法〕 リアクションペーパー（50%）、学期末レポート（50%）							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕 『ライプカルチャーの教科書』、宮入恭平、青弓社、2,000 円、4787274228
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		カルチュラル・スタディーズ<4>					
教員名		北小路 隆志					
科目No.	120710740	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 テーマは、映画の「分析的な見方」を学ぶことです。そのうえで、映画についての「批評」を、対象となる作品の独自性のみならず、できれば、それを発見する論者（＝皆さん）自身の独自性も発揮しつつ執筆してもらうことを目指します。その狙いは以下の通りです。誰もが、多かれ少なかれ日常的に映画に接し、よほど難解で特殊な作品でもない限り、その内容を理解できるはずですが、皆さんは本当に映画を《見ること》や《聴くこと》ができていますでしょうか。たとえば、単に物語や主演俳優の容姿に一喜一憂したり、そこで提起される「主題」に共感、もしくは違和感を覚えたりしているだけではないでしょうか。映画は、長い時間をかけて「物語」を語るためのさまざまな技法を身につけ、それらを洗練させていく一方で、それらを解体するような実験もあわせて推進してきています。そしてその「文法」は、「動画」が溢れかえる現在にあってもなおさまざまな視覚表現の規範となっているのです。この授業では、(物語の)「内容」に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、(物語の)「形式」（語り方や映画技法、技術的側面）に焦点を当てた（分析的な）鑑賞法について学びます。そして、そこでの「学び」を基盤に映画批評の執筆に挑戦してもらいます。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）を実現するため、 ①現在もお視聴覚表現の規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法（理論）を身につけることができる。 ②上記の分析的な鑑賞法（理論）を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」（＝魅了）を明らかにすることができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱いてきた映画観について発表を求め、検討する。 ・授業概要を要約するイントロダクション的な講義。			・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観（これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など）をまとめておくこと。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 2 回	フレームと「平面性」について① ・映画の基本的性格をめぐる考察として、その平面性とフレームによる限定について学ぶ。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 3 回	フレームと「平面性」について② ・前回の授業内容の続きと応用。具体的な作品分析を通し、関連するさまざまな演出法やフレームの形態について学ぶ。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 4 回	映画の「現実感」について ・なぜ映画は独自の「現実感」を備え、それがどのようなかたちで作品で言及されてきたか。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		120	
第 5 回	画面と画面外空間について① ・画面とは何か、画面外空間とは何か。画面外空間はいかにして創出されるのか。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。		90	
第 6 回	画面と画面外空間について② ・絵画と映画のフレームの差異。 ・画面外空間を使った演出とその分析。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 7 回	ショットの概念① ・空間から時間へ。 ・ショットの定義をめぐって。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 8 回	ショットの概念② ・ショット・サイズによる分類法。クロースアップから遠景ショットまで。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 9 回	ショットの概念③ ・ショットとカメラの動き、そして時間。 ・「問題」としてのショット・シークエンス。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 1 0 回	聴覚的表象としての映画① ・映画におけるサウンドの分類法。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 1 1 回	聴覚的表象としての映画② ・映画におけるサウンドの活用法、演出法の具体的な解説。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 1 2 回	モンタージュ（編集）の概念① ・モンタージュとは何か。それが映画にとっていかに重要で、また論争的であるか。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の全編鑑賞。		90	
第 1 3 回	モンタージュ（編集）の概念② ・モンタージュをめぐる 2 つのイデオロギーを通して、映画理論を整理する。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第 1 4 回	「まとめ」 ・授業の振り返りと、期末レポート執筆に向けての説明や質疑。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。 ・期末レポートに向けた準備		120	
〔授業の方法〕							

※最終版ではないため内容の変更となる場合があります。

- ・講義や参考資料の読解を中心に進めつつ、適宜、関連する映画の（主として部分的な）上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真剣な態度での鑑賞が必要で、受講者には積極的な態度での参加を求める。また、授業で使用したり言及された映画の全編を、可能な範囲で自主的に鑑賞してもらいたい。なお、授業の理解度や授業に臨むうえでの積極性などを確認するために、課題レポートを実施する場合もある。
- ・期末レポート：授業や参考資料での学習を通し、映画の基本的な技法について理解できて

〔成績評価の方法〕

期末レポート 60%。平常点（授業への参加状況や課題レポートの提出状況）40%による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

「映画理論講義」（J・オーモン他著、武田潔訳、勁草書房）。その他の参考資料が発生した場合も含め、授業内で使用する分については、CoursePower に掲載、もしくは印刷して配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	現代のマスメディア						
教員名	小林 正幸						
科目No.	120720710	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 テーマ：「よく生きる」ことからマスメディアについて考える わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。当たり前ですが、我々が「よく生きる」ためにマスメディアがあります。ですから「よく生きる」という地点から、現在のマスメディアの現実を理解する必要があります。 その現実、マスメディアに関する理論や概念からアプローチできます。当然急速に発展してきたソーシャルネットワークの現実についても同様です。 我々はマスメディアが「よく生きる」ことに反していれば、どのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実生活をしている社会そのものに関心をもちながら、毎回の授業に臨んでください。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①マスメディアが果たしている役割を理解し、他人と知識交換をしながらきちんと説明できる。 ②マスメディアの功罪と展望を説明できる。 ③ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・メディアとは何なのか、その本質について解説します。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の進め方などを確認する。		60	
第2回	マスメディアとは何か ・マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・自明とされるマスメディアに対する理解に転を入れます。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	・マスメディアの本質 この授業でのマスメディアの本質を位置付けます。マスメディアによって伝達される情報が事実ではないことを確認します。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	・マスメディアはPR 機関 ここでは近代になってからのマスメディアが果たして来た役割がPRにあることを解説します。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	・メディアリテラシー1 教科書的なメディアリテラシーの考え方を解説し、そこに留まってはいけないことを考えます。大切なのは自身のリテラシーを重ねることです。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	・メディアリテラシー2 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		90	
第7回	・メディアリテラシー3 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。これら事例の分析から、教養の重要性を確認します。			【予習】前々回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
第8回	・中間テスト（小テスト） これまでの講義における考え方、理論や概念を確認するための試験を行います。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	・産業としてのマスメディア 経済の三主体「政府・家計・企業」という図式から導かれるマスメディアの位置付け、その政治的立場がどうあるべきか解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	企業戦略とマスメディア ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略がどのように変化してきているかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	マスメディアと政治と民主主義 ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。 ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	・マスコミュニケーション研究を概説する1 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは、具体的な例をあげ強力効果説から限定効果説への流れを歴史的に押さえておく。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	・マスコミュニケーション研究を概説する2 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは前回の講義を踏まえ、具体的な例をあげ新強力効果説につ			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができ		60	

	いて解説する。	るようしておく。	
第 1 4 回	総括として ・メディアと呪術性について これまでの授業をふり返り、マスメディアやインターネットでの炎上や社会問題について問題を提起する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようしておく。	60
〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。特にリアクションペーパーを提出してもらう。 授業は以下のような流れになる。 1 教員による講義 2 教員による次回講義のテーマや考えておくことを提示する。 → 3 講義の復習（ここが一番大切です。その理由は最初の講義で説明します） 4 次回のテーマについての自習 → 5 そのテーマに沿った教員による講義 ただ講義は生き物ですから、皆さんの反応			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメントやリアクションペーパー（15%）、中間テスト（15%）、最終試験（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ①基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ②マスメディアの功罪を通して、現代社会を見通す深い理解力。 ③試験において、講義が活かされている解答をしていること。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 小林正幸『メディアリテラシーの倫理学』風塵社			
〔参考書〕 授業で適宜指示をする。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名	社会心理学入門<1>						
教員名	後藤 伸彦						
科目No.	120720810	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 社会心理学とは、「社会」的状況における人の「心理」について学び、研究する学問です。ここでいう「社会」的状況とは他者がいる状況を指します。他者は 1 人の時もあれば、複数の時もあります。例えば、あなたは他人と一緒にいるときと友人といるときで、振る舞いや考え、物事の感じ方が変わりますか？また大学や日本人の一員だと感じるときに変わりますか？これらのことについて研究を行い、今も日々世界中で研究が行われているのが社会心理学です。本講義では、自己や他者の見方（認知、ステレオタイプ）、感じ方（感情）、また他者に対する振る舞い（偏見、差別）などについて扱います。またそのような心が「文化」というより大きな文脈によってどのように影響を受けているのかについて考えます。そしてこれらについての学びを通じて、社会心理学的視点から日々の生活を捉え直すことを目指します。							
〔到達目標〕 (1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP 2） (2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2） (3) 社会心理学の考え方をもとに自分や他者の言動を分析・理解し、その言動がどのようなメカニズムで生じているのかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・DP 3）。 (4) 上記の内容							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する			【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する		60 分	
第 2 回	○社会心理学の研究法 ・社会心理学の方法論について理解する ・社会心理学の研究を理解する上で必要となる基礎的な用語について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 3 回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 4 回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 5 回	○感情・気分 ・感情と気分の違いについて理解する。 ・気分が我々の認知に与える影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 6 回	○感情・情動 ・感情と気分、情動の違いについて理解する。 ・情動と認知の関係について理解する ・情動の測定方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 7 回	○態度と説得 ・態度の酒類、機能について理解する ・我々が持つバイアス、及びそのバイアスを用いた説得方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 8 回	○対人関係 ・対人関係に影響する魅力の要因について理解する ・様々な対人関係の違いについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 9 回	○集合現象 ・災害時の避難行動現象について理解する ・うわさの機能について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 10 回	○組織と集団過程 ・リーダーシップの類型について理解する ・集団過程がもたらす負の影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 11 回	○文化 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 12 回	○健康 ・ストレスの影響について理解する ・ストレスの対処（コーピング）や社会的サポートの影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	

第 1 3 回	○社会的アイデンティティとその影響 ・社会的アイデンティティとは何かについて理解する。 ・集団に属する自己という意識を持った時に我々がどのような行動をとるかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第 1 4 回	○メディアと文化 ・マスメディアなどのメディアが我々に与える影響について理解する。 ・フェイクニュースを信じやすい人の特徴について、心理学の観点から理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
〔授業の方法〕 ・授業は対面で行う。 ・授業形式は PowerPoint を用いた講義形式を基本とする。 ・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含まれない。			
〔成績評価の方法〕 ・平常点（ミニテスト等の提出状況）：30％ ・試験：70％			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 試験については、下記の観点から評価する予定である。 ・社会心理学の方法論について理解しているか。 ・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 ・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 平常点については下記の観点から評価する予定である。 ・社会現象を社会心			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業で指示			
〔テキスト〕 購入の必要なし： 『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520 円 『社会心理学概論』、北村 英哉・内田 由紀子 編、ナカニシヤ、3,850 円			
〔参考書〕 いずれも購入の必要なし： 『個人のなかの社会 〔展望 現代の社会心理学 1〕』 浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840 円 『コミュニケーションと対人関係 〔展望 現代の社会心理学 2〕』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400 円 『社会と個人のダイナミクス 〔展望 現代の社会心理学 3〕』、唐沢穰・村本由紀子編著、誠信書房、4620 円			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名	社会心理学入門<2>						
教員名	後藤 伸彦						
科目No.	120720820	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 社会心理学とは、「社会」的状況における人の「心理」について学び、研究する学問です。ここでいう「社会」的状況とは他者がいる状況を指します。他者は 1 人の時もあれば、複数の時もあります。例えば、あなたは他人と一緒にいるときと友人といるときで、振る舞いや考え、物事の感じ方が変わりますか？また大学や日本人の一員だと感じるときに変わりますか？これらのことについて研究を行い、今も日々世界中で研究が行われているのが社会心理学です。本講義では、自己や他者の見方（認知、ステレオタイプ）、感じ方（感情）、また他者に対する振る舞い（偏見、差別）などについて扱います。またそのような心が「文化」というより大きな文脈によってどのように影響を受けているのかについて考えます。そしてこれらについての学びを通じて、社会心理学的視点から日々の生活を捉え直すことを目指します。 ※前期に行われた「社会心理学入門／<1>」とほぼ同様の講義を行う予定であるため、「社会心理学入門／<1>」を履修した者は履修する必要がない。							
〔到達目標〕 (1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP2） (2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP2） (3) 社会心理学の考え方をもとに自分や他者の言動を分析・理解し、その言動がどのようなメカニズムで生じているのかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP2・DP3）。 (4) 上記の内容							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する			【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する		60 分	
第 2 回	○社会心理学の研究法 ・社会心理学の方法論について理解する ・社会心理学の研究を理解する上で必要となる基礎的な用語について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 3 回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 4 回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 5 回	○感情・気分 ・感情と気分の違いについて理解する。 ・気分が我々の認知に与える影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 6 回	○感情・情動 ・感情と気分、情動の違いについて理解する。 ・情動と認知の関係について理解する ・情動の測定方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 7 回	○態度と説得 ・態度の種類、機能について理解する ・我々が持つバイアス、及びそのバイアスを用いた説得方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 8 回	○対人関係 ・対人関係に影響する魅力の要因について理解する ・様々な対人関係の違いについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 9 回	○集合現象 ・災害時の避難行動現象について理解する ・うわさの機能について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 10 回	○組織と集団過程 ・リーダーシップの類型について理解する ・集団過程がもたらす負の影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 11 回	○文化 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 12 回	○健康 ・ストレスの影響について理解する ・ストレスの対処（コーピング）や社会的サポートの影響につ			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業		60 分	

	いて理解する	で習った内容と関連させつつ解釈する	
第 1 3 回	○社会的アイデンティティとその影響 ・社会的アイデンティティとは何かについて理解する。 ・集団に属する自己という意識を持った時に我々がどのような行動をとるかにについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第 1 4 回	○メディアと文化 ・マスメディアなどのメディアが我々に与える影響について理解する。 ・フェイクニュースを信じやすい人の特徴について、心理学の観点から理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
〔授業の方法〕 ・授業は対面で行う。 ・授業形式は PowerPoint を用いた講義形式を基本とする。 ・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含めない。			
〔成績評価の方法〕 ・平常点（ミニテスト等の提出状況）：30% ・試験：70%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 試験については、下記の観点から評価する予定である。 ・社会心理学の方法論について理解しているか。 ・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 ・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 平常点については下記の観点から評価する予定である。 ・社会現象を社会心			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業で指示			
〔テキスト〕 購入の必要なし： 『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520 円 『社会心理学概論』、北村 英哉・内田 由紀子 編、ナカニシヤ、3,850 円			
〔参考書〕 いずれも購入の必要なし： 『個人のなかの社会 〔展望 現代の社会心理学 1〕』 浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840 円 『コミュニケーションと対人関係 〔展望 現代の社会心理学 2〕』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400 円 『社会と個人のダイナミクス 〔展望 現代の社会心理学 3〕』、唐沢穰・村本由紀子編著、誠信書房、4620 円			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		企業と社会					
教員名		鈴木 美代子					
科目No.	120720920	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個々人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目標とします。 ①経営学の基礎知識を身につける。 ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・ 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・ 日常のなかで企業を考える。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 2 回	産業の発展と経営学 ・ 産業の発展を背景とした近代マネジメントの誕生について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	組織構造 ・ 組織において仕事を円滑に進めるための組織設計について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	組織文化 ・ 組織メンバーによって共有される考え方や行動様式について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	組織社会化 ・ 新入社員が組織に適応していくプロセスについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	組織のなかの個人と集団の特徴 ・ 集団行動と集団のダイナミクスについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	モチベーションとリーダーシップ ・ 組織の目標を達成するために行使される影響力について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 8 回	経営戦略 ・ 組織環境を分析し、対応することについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	全社戦略と協調戦略 ・ 企業の事業範囲や活動領域の選定に関わる戦略について学ぶ。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	競争戦略 ・ ライバル企業との競争に関する基本的な概念について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	マーケティング ・ 市場を創るという視点からマーケティングの基本的な概念について学ぶ。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	株式会社の仕組み ・ 株式会社の基本的な特徴と仕組みについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	日本的経営の特徴 ・ かつて世界から注目された日本企業の特徴とその変化について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	総括 ・ 授業全体のまとめを行う。			【予習】これまでの配布資料を再読する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする		90	
〔授業の方法〕 ・ 具体的な授業の運営方法は、第 1 回の授業および配布資料において説明します。 履修を予定している方は、第 1 回の授業に出席し、配布資料にも目を通して下さい。 ・ 講義形式で授業を行います。 ・ 課題などを通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。 ・ 上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への参加状況や課題への回答）40%、および学年末試験 60%により評価します。 なお、評価割合（%）を変更する可能性があります、その際は授業期間中に履修者へ周知致します。成績評価の方法はガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第 1 回の授業に必ず参加してください。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上述した次の 2 点の目標が達成できていること。 ①経営学の基礎知識を身につける。 ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は特にありません。
〔テキスト〕 教科書は指定しません。
〔参考書〕 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ 井上達彦・中川功一・川瀬真紀（2020）『経営戦略論』中央経済社 小山巖也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問いからはじめる現代企業』有斐閣 ※参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。
〔特記事項〕 特にありません。

※最終版ではより正確な数字は変更となる場合がございます。

科目名		物質の究極像					
教員名		丸吉 一暢					
科目No.	120730110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 物理嫌いでも構いません。「自然界の基本的な成り立ち」について、好奇心をもっている人に、誰にでもわかるレベルで説明します。物質は原子からできているという話から始まり、原子は原子核と電子からできており、次に原子核は陽子と中性子からできており、さらにクォーク、ニュートリノとは何かと、話が進んでいきます。そして現段階での物質の究極像である標準理論にたどり着きます。人類は自然の基本構造をどこまで明らかにしたのか、感じ取ってもらうための授業です。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】を目標とする。 自然界の根本法則に対して、科学者がどのように取り組んでいるかを知る。そしてその最先端の状況についてイメージをもち、ときにテレビや新聞・雑誌に登場する科学ニュースに、関心をもって接触できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	素粒子物理学への導入			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 2 回	近代科学はなぜ誕生したのか：ニュートンの力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 3 回	近代科学の発展：原子論・熱とエネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 4 回	光の歴史：光は波か？粒子か？			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 5 回	光の歴史：光は波か？粒子か？その 2			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 6 回	新しい物理学（量子力学）			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 7 回	粒子の生成・吸収：質量エネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 8 回	素粒子物理学の誕生：湯川の間接子論			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 9 回	弱い相互作用			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 0 回	核子からクォークへ、量子色力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 1 回	新粒子の発見			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 2 回	素粒子の標準模型			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 3 回	標準模型＋アルファ：CP の破れとニュートリノ振動			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 4 回	今後の展望/宇宙から見えること			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
〔授業の方法〕 講義形式の授業を行います。授業は多少余裕をもって終え、授業中に簡単な課題を課します。また、レポート（主として内容の要約）を数回程度提出してもらいます。							
〔成績評価の方法〕 平常点（毎回の課題や授業への参加状況）60%、レポート点 40%で評価します。 レポートは提出が第一で、内容の評価も加味します。試験はありません。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 『物質の究極像をめざして』、和田純夫著、ベレ出版
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイト、Course Power で周知する。
〔特記事項〕

科目名		人間と進化					
教員名		櫻木 晃彦					
科目No.	120730210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 この授業の内容は生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探究するものである。具体的には、生物としてのヒトの特徴を学ぶ。あらゆる自然科学の究極の目的は自分自身を知ることであろう。生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものかを学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業を体験する。							
〔到達目標〕 生物としてのヒトの正確なイメージをもつこと。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	1. 教養とは何か			教養とは何かを考える。		60 分	
第 2 回	2. 共通言語の必要性			共通言語の必要性和生物学について考えておく。		60 分	
第 3 回	3. 全身の骨			人体の概形を決めているのは何かを考える。		60 分	
第 4 回	4. 衝撃吸収機構			衝撃吸収機構と骨格がヒトの特徴であることを理解しておく。		60 分	
第 5 回	5. 感覚はすべてのはじまり（1）			ヒトの感覚の特徴について考える。		60 分	
第 6 回	6. 感覚はすべてのはじまり（2）			ヒトの視覚の特徴について考える。		60 分	
第 7 回	7. 骨と骨の連結			骨の連結と関節について考える。		60 分	
第 8 回	8. 成長と進化			進化とヒトの成長について考える。		60 分	
第 9 回	9. ヒトの個体発生（1）受精・誕生・成長			ヒトの受精から成長について考える。		60 分	
第 1 0 回	10. ヒトの個体発生（2）老化と死			ヒトの死について考える。		60 分	
第 1 1 回	11. 進化とは何か（1）			進化と進歩の違いについて考える。		60 分	
第 1 2 回	12. 進化とは何か（2）			課題レポートについて考えておく。		60 分	
第 1 3 回	13. 古人骨と戦争			北京原人と明石原人について考えておく。		60 分	
第 1 4 回	14. ヒトとしての自分自身を考える			関連すると判断できるところを熟考する。		60 分	
〔授業の方法〕 講義形式で行なう。ほぼ毎回プリントを配布し、コンピュータグラフィックス等の画像を駆使して視覚に訴え、わかりやすく解説する。							
〔成績評価の方法〕 評価は課題レポート(95%)と授業への参加状況(5%)による。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
人体に興味があることを必要とする。高校で「生物」を履修している必要はない。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
『ここまでわかった人類の起源と進化』、R. ルーウィン、てらぺいあ社、¥3200、ISBN:88699-013-4

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		脳科学と心<1>					
教員名		勝沼 るり					
科目No.	120730310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		脳科学と心<2>					
教員名		勝沼 るり					
科目No.	120730320	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		天文学入門					
教員名		渡部 潤一・古荘 玲子					
科目No.	120730410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。							
〔到達目標〕 1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する。 2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や、評価基準について説明する。 ・天文学のはじまりと研究の流れについて解説する。			【予習】シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。		30 60	
第 2 回	基礎知識 1 ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。			時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 3 回	基礎知識 2 ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。			観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 4 回	太陽系 1 ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。			太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 5 回	太陽系 2 ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。			個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 6 回	太陽系 3 ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。			太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 7 回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。			太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 8 回	恒星 1 ・恒星とはなにか、および恒星分類について解説し、学修する。			恒星とはなにか、および恒星分類について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 9 回	恒星 2 ・恒星の進化と輪廻、物質循環にはたす恒星の役割について解説し、学修する。			恒星の進化と輪廻、物質循環にはたす恒星の役割について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 0 回	銀河系 ・天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。			天の川銀河の性質、構造、および進化について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 1 回	銀河 ・銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。			銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 2 回	宇宙論 ・宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。			宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 3 回	宇宙と生命 ・宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに経学惑星について解説し、学修する。			宇宙における生命の可能性や生命探査、経学惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 4 回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕 教室での講義を主体とする。授業時に、各回のトピックに関するプリントを配布する。普段から、ノートやプリントを復習に力を入れること。講義内容の理解度を確認するため、講義内容から簡単な問題を「出席クイズ」という形で出題し、結果を授業参加度に反映する（ただし、毎回ではない）。最終講義に「到達度確認テスト」を行い、講義全体の学習内容についての理解度を確認する。							
〔成績評価の方法〕 最終講義で実施する「到達度確認テスト」の成績を主とするが（70%）、「平常点（各回講義の参加状況や、「出席クイズ」を実施した場合はその結果）」（30%）を加味する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
- ② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

〔テキスト〕
特になし（必要に応じてプリントを配布します）

〔参考書〕
「面白いほど宇宙がわかる 15 の言の葉」 渡部潤一著、小学館 101 新書
「宇宙科学入門 ー第 2 版ー」 尾崎洋二著、東京大学出版会
「シリーズ 現代の天文学」全 17 巻、日本評論社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
講義終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名	薬はなぜ効くか						
教員名	須藤 勝美, 増田 典之						
科目No.	120730510	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 <概要> 薬は、動物あるいは植物等、いわゆる生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに対して作用して、健康維持、予防、治療、診断のために用いられる物質の総称である。現在、病院や薬局で手に入る薬（医薬品）の多くは、最新の科学を取り入れ、長い年月と高額な費用を投じて研究開発されてきており、様々な形態や種類が存在している。そして、「薬はなぜ効くか」を考えると、その回答は、「薬がどのように生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに作用するか」の理解に通じるのである。本講義では、最新の薬の研究開発情報を取り入れながら、「薬はなぜ効くか」について、できるだけ理解しやすく講述していく。 <テーマ> 「薬はなぜ効くか」の理解は、新薬の研究開発、副作用の軽減、正しい薬の使い方などのために必要である。まずは、「薬とは何か」を理解した上で、薬の分類、作用機序（薬はなぜ効くか）、新薬の研究開発プロセス、個別化医療など、「薬」全般について講義する。近年、薬の形態・治療手段（モダリティ）は低分子化合物のみならず、抗体、核酸、遺伝子など多様性が増している。種々のモダリティについて具体的な薬に関する事例とともに紹介する。また、最近の新薬の事例として、COVID-19 のパンデミックで研究開発された mRNA ワクチンについて、激しい競合状況を含めて話題を提供する。さらに、社会問題となっている違法薬物、オーバードーズの危険性や、スポーツにおけるドーピング問題などについても講義する。 薬は、我々の健康維持や疾患治療に欠かせないものであり、科学の進歩によって日々進化している。薬にかかわる分野は、医学、薬学、生物学、化学を始め、物理学、工学、倫理学、経済学などから成る総合科学であることを認識し、多様な観点から考察することにより、「薬はなぜ効くか」を理解する。また、生体の機能メカニズムの理解が治療法の開発の基礎となり、新しい薬の研究開発へと繋がる。この講義で、常に進化する最新の薬について紹介する。							
〔到達目標〕 受講生が、①薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できること、②その理解のもと、健康的、かつ保健衛生的な生活がおくれるようになることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	講義全体の説明 「薬（医薬品）とは何か」 ・薬（医薬品）の定義 ・身の回りの薬 ・薬の治療効果、副作用 ・個人による効果の差 <補足>薬は、病気を治療・改善し、健康を保つために用いられる物質である。また、薬は病気の治療効果が期待される一方で、副作用やリスクが伴う。個々の体質や病態によって異なる反応が現れ、時には予測困難な副作用が生じることがある。			<予習> 身の回りの薬を調べる <復習> 薬（医薬品）の定義を理解する		30 60	
第 2 回	「薬の分類」 ・モダリティ ・剤形 ・その他 <補足> (1) モダリティ 薬は、形態・治療手段（創薬技術・手法）、いわゆるモダリティによって分類される。モダリティとしては、低分子、ペプチド、抗体、核酸医薬、遺伝子、ワクチン、細胞などがある (2) 剤形 薬は、その投与形態によって分類される。剤形には、経口剤、注射剤、塗布剤などがある。さらに、経口剤には錠剤、カプセル剤、液剤、シロップ剤など、注射剤には静注剤、筋注剤、皮下注射などがある。 (3) その他 薬には、医師もしくは歯科医			<予習> インターネットなどで、薬の分類について調べる <復習> 様々な薬の分類の仕方について理解する		30 60	
第 3 回	「生理学的な作用」 ・薬の標的分子と作用機序 <補足>薬の生体内での作用、すなわち生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに対する作用を発揮する標的として、 (1) 受容体、(2) 酵素、(3) イオンチャネル、(4) トランスポーター、(5) 核酸などがある。			<予習> 高校の生物の教科書で受容体等について調べる <復習> 様々な薬の標的分子と作用機序について理解する		30 60	
第 4 回	「研究開発プロセス」(1) ・新薬研究開発の現状 ・疾患発掘、標的探索、モダリティ戦略 ・スクリーニング、最適化 <補足>新しい薬（新薬）の研究開発には 10 年以上の歳月と 2000～2500 億円程度の研究開発費が必要であり、成功確率は 3 万分の 1 と言われている。			<予習> 「新たな薬が必要な病気とは何か」を調べる <復習> 新薬の研究開発の現状について理解する		60 60	
第 5 回	「研究開発プロセス」(2) ・非臨床試験 ・臨床試験 ・承認申請、審査 ・承認、上市 <補足>新しい薬（新薬）の研究開発には 10 年以上の歳月と 2000～2500 億円程度の研究開発費が必要であり、成功確率は 3			<予習> 「臨床試験」を調べる <復習> 新薬の研究開発プロセス全体を理解する		30 60	

	万分の1と言われている。(前回と同じ)		
第6回	「疾患と薬（感染症治療薬）」 ・感染症とは ・治療薬の種類と用法 ・感染の予防法 ＜補足＞感染症とは、病原体（細菌、ウイルスなど）が生体に定着し、発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状を生じることであり、治療法としては対症療法（解熱鎮痛薬）、根治療法（抗生物質、抗ウイルス薬）、免疫（ワクチン）などがある。	＜予習＞ 「感染症治療薬」の種類について調べる ＜復習＞ 感染症治療薬の用法を理解する	30 60
第7回	「疾患と薬（COVID-19 感染予防ワクチン）」 ・COVID-19 によるパンデミック ・作用機序 ・研究開発プロセスと倫理的課題 ・競合状況 ・その他（治療薬開発等） ＜補足＞COVID-19 は新型コロナウイルス感染症であり、近年世界中がパンデミックに直面したが、極めて短期間で治療薬と mRNA ワクチン等が開発されている。	＜予習＞ COVID-19 のワクチンについて調べる ＜復習＞ ワクチンの種類、作用機序について理解する	30 60
第8回	「疾患と薬（生活習慣病治療薬（高血圧治療薬、高脂血症治療薬、糖尿病治療薬）」 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス ＜補足＞生活習慣病とは、食事や運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関与し、それらが発症の要因となる疾患の総称であり、上述したがんをはじめ、高血圧症、高脂血症、糖尿病などが含まれ、これまで疾患ごとにいろいろな薬が開発されてきた。	＜予習＞ 生活習慣病について調べる ＜復習＞ 生活習慣病の治療薬の種類、作用機序について理解する	30 60
第9回	「疾患と薬（抗悪性腫瘍治療薬）」 ・悪性腫瘍 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス ・コンパニオン診断薬 ＜補足＞抗悪性腫瘍治療薬は、細胞障害性抗がん薬（化学療法薬）、分子標的薬、ホルモン療法薬（内分泌療法薬）、免疫チェックポイント阻害薬等の種類があり、悪性腫瘍の種類、ステージ等によって使い分けられる。	＜予習＞ 高悪性腫瘍治療薬について調べる ＜復習＞ 腫瘍治療薬の種類、作用機序、コンパニオン診断薬について理解する	30 60
第10回	「疾患と薬（アルツハイマー型認知症治療薬）」 ・アルツハイマー型認知症 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス ＜補足＞アルツハイマー型認知症とは、脳の神経細胞が徐々に減っていく進行性疾患で、脳が萎縮することで認知障害が現れる疾患であり、薬による治療は難しいという状況であったが、近年になり期待できる治療薬が開発されてきている。	＜予習＞ アルツハイマー病について調べる ＜復習＞ アルツハイマー病の治療薬の種類、作用機序について理解する	30 60
第11回	「個別化医療」 ・個別化医療とは ・医療における適用状況 ＜補足＞薬には効果がある一方で、副作用や注意が必要な事項も存在するが、いずれも“個人差”がある。近年、特に抗腫瘍薬の適応の際には、個別化医療の考え方（「効果が発揮しやすい、副作用が少ない患者への投与」）が志向されている。	＜予習＞ 個別化医療について調べる、身の回りで薬に対する作用の違いを考える ＜復習＞ 個別化医療について理解する	30 60
第12回	「バイオテクノロジーと新しい薬」 ・新規モダリティ ・次世代の医療の方向性 ・新しい倫理課題 ＜補足＞最近では、遺伝子工学や生体細胞を利用して研究開発された薬が上市され、がんや免疫疾患の治療などに適応されてきている。	＜予習＞ 未来の薬とはどのようなものかを想像する ＜復習＞ 未来の薬について理解する	30 60
第13回	「違法薬物、オーバードーズの危険性や、スポーツにおけるドーピング」 ・違法薬物 ・オーバードーズ ・ドーピング ＜補足＞違法薬物、薬の過剰摂取、スポーツ競技において禁止されている薬等について学修する	＜予習＞ 課題にあるキーワードについて調べる ＜復習＞ 違法薬物、オーバードーズ、ドーピングの危険性について理解する	30 60
第14回	まとめ ・「薬はなぜ効くか」	＜予習＞ これまでの講義内容から、「薬はなぜ効くか」のキーワードを3～5個ピックアップする ＜復習＞ ピックアップしたキーワードを使用して「薬はなぜ効くか」に関するレポートを作成する	60 60
〔授業の方法〕 この授業は、[ライブ型（リアルタイムオンライン）授業＋録画提供]で実施する。パワーポイントを用い、対話形式をとりながら可能な限り受講生との双方向性を高めるよう工夫する。毎回講義内容の資料を配布する。毎回小テストを行いテクニカルターム、講義内容について出題する（毎回講義終了前15分間で実施（14回））			
〔成績評価の方法〕 期末レポート（50%）、小テスト（50%）の成績を加味して評価する。			
〔成績評価の基準〕			

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日常的に新聞、テレビ、インターネット、雑誌・図書などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。

〔テキスト〕
「特になし」

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		身の回りの科学					
教員名		加藤 光裕					
科目No.	120730610	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 身近な自然現象や地球環境、生活に欠かせない種々の機器の動作など、様々なものの背後にある科学的原理や法則を理解することは、変化の速い高度技術社会と、環境との関わりを意識することが不可欠な時代に生きる現代人にとって、今や必須の素養です。また、科学的なものの見方・考え方を身につけることで、巷に溢れる根拠のない情報や風評に惑わされずに正しく判断したり適切な行動をとるためのベースを作ることが、情報過多の現代社会において必要とされています。 この授業では、身近な自然現象や身のまわりの機器などをいくつか取り上げて、その科学的原理や法則を具体的に理解するとともに、物事をブラックボックス化せず科学的根拠に基づいて合理的に理解していく考え方や心構えなどを涵養していくことを目指します。なお、各回の授業内容や順序は、変更する場合があります。							
〔到達目標〕 DP2、DP3 を実現するため、以下を主な到達目標とする。 身のまわりの様々な自然現象や機器の仕組みなどを背後にある科学的原理や法則に基づいて理解する。 身のまわりの事象や物事を科学的に分析し合理的に理解する方法や心構えを身につける。 身のまわりのものに興味を持ち、なぜ？どうして？という発想を自然に持てるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・月はなぜいつも同じ面を地球に向けている？ （万有引力、遠心力、力の釣り合い、力のモーメント、剛体）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 2 回	・台風の渦巻きはどうして反時計回り？ （気圧と風、コリオリ力、慣性系と加速度系）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 3 回	・電磁調理器と IC カード （電場と磁場、電磁誘導、ジュール熱、IC カード、非接触充電）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 4 回	・電子レンジはなぜ温められる？ （電磁波、波長と振動数、光、紫外線、X 線、温室効果ガス）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 5 回	・スマホと通信 （電波、共振、変調、アナログとデジタル、公開鍵暗号、電子署名）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 6 回	・放射温度計はなぜただでさえ温度が測れるのか （放射温度計、黒体放射、色温度、宇宙背景放射、星の表面温度）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 7 回	・お湯は自然に冷めるけど、水は自然にお湯にならないのはなぜ？ （熱力学の法則、熱機関、ヒートポンプ、マイクロとマクロ、エントロピー）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 8 回	・地震波と音波 （地震、P 波・S 波、音、ドップラー効果、ノイズキャンセル、マイク、スピーカーの原理）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 9 回	・放射線と放射能 （原子と原子核、 α 線、 β 線、 γ 線、ベクレルとシーベルト、外部被曝、内部被曝）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 10 回	・GPS と相対性理論 （GPS、光の速さ、同時刻の相対性、時計の遅れ）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 11 回	・AI とは （ニューラルネットワーク、ディープラーニング、ChatGPT）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 12 回	・身の回りの量子 （粒子と波、量子的世界、半導体、LED と太陽電池、フラッシュメモリ とトンネル効果）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第 13 回	・すべての始まり、すべての素 （素粒子、鏡の中の世界、物質と反物質）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調		60 分程度以上	

		べてみること。	
第 1 4 回	・科学とは？ (科学と技術、科学法則、理論と実験、偽科学、研究不正、法科学)	予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。	60 分程度以上
〔授業の方法〕 スライドや板書による講義を中心に、毎回 Slido を用いたクイズや、MS Forms を用いた「おさらいテスト」を行う。そのため、スマートフォンあるいはパソコンを持参すること。予告なしの小テストなど行う可能性もある。話を聴いて終わりではなく、主体的・積極的に自ら考えたり調べたりすることが重要である。必ず自らの手でノートもしくはメモを取る。これは、学習内容の定着や頭の整理にとって重要な作業であり、スライドや板書を許可なく安易にスマホやカメラ等で撮影してはならない（正当な理由があれば申し出ること）。			
〔成績評価の方法〕 基本的には学期末試験で 50%以上評価するが、毎回のおさらいテストの結果を加味する。その他に小テストや課題提出を行なった場合はその評価を適宜加味する可能性がある。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第 39 条)に準拠する。 授業で取り上げたテーマに関してその原理や法則が理解できたか。 科学的な考え方に則って物事を分析することができるか。 ★理工学部生の場合は、上記に加えて数学表現を用いて定量的に説明できるか。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 特になし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業時間中にわからない点があればその場で質問することが、質問者本人にとっても、やりとりを聴いているまわりの学生にとっても、最も理解を深められるため、推奨される（教員にとっても学生の躰いた点に即応し臨機応変に説明に反映できる）。 時間があれば授業終了後にも質問を受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名	科学技術の発展と歴史						
教員名	渋谷 一夫						
科目No.	120730810	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 科学技術は長い歴史の中で多くの人びとの努力の積み重ねによって発展させられてきた。この授業では、18 世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを明らかにする。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 ①それぞれの科学技術がどのような経過をたどって内的に発展してきたかを説明できる。 ②それぞれの科学技術が当時の社会・経済・政治などどのような関係にあったかを説明できる。 ③それぞれの科学技術が後の社会・経済・思想などにどのような影響を与えたかを説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス - 授業の内容、進め方、予習・復習のしかたなどを文書で説明する。 科学技術と産業革命 - 科学技術から見た産業革命について概観する。			【予習】産業革命とは何だったかを確認する。		60	
第 2 回	繊維産業における科学技術の発達 繊維産業が産業革命の起源になった要因について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 3 回	動力技術の歴史（1）—蒸気機関の発明 蒸気機関を利用した時代の特徴を水車の利用との対比で学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 4 回	動力技術の歴史（2）—蒸気機関の改良と発展 工場で広範に利用された蒸気機関の特徴を、近代的な蒸気機関の発明者であるワットの研究に沿って学修する			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 5 回	動力技術の歴史（3）—輸送技術の発達 蒸気機関の輸送技術への応用の意味について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 6 回	製鉄技術の歴史 製鉄技術における新しい発明とその意義について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 7 回	工作機械技術の歴史 工作機械技術の形成と発達過程を社会的事情とのかかわりで学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。また、課題レポートの作成に努める。		120	
第 8 回	化学技術の歴史（1）—漂白技術の新展開 繊維産業における漂白工程の新しいやりかたについて学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 9 回	化学技術の歴史（2）—環境問題の発生 漂白工程の近代化がもたらした環境悪化とそれに対する各種の取り組みについて学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 10 回	化学技術の歴史（3）—染料技術の新展開 新しい染料技術が生まれる科学的・技術的背景について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 11 回	化学技術の歴史（4）—合成染料発明の意義 合成染料技術の開発に関する科学技術的特徴について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 12 回	電気技術の歴史（1）—通信技術の新展開 通信技術の変化について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第 13 回	電気技術の歴史（2）—照明技術の新展開 電気照明にとって必要な関連技術とともに、電気照明の優位性について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	

第 1 4 回	電気技術の歴史（3）—電力生産と産業電化 ・電気技術が産業界に与えた影響とともに、その開発の意味を学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなうが、教科書を使うわけではないので、ポータル上にあげるレジュメ（講義の要旨）をプリントアウトして授業に望んでほしい。必要に応じて参考資料を配布する。ある程度まで進んだ段階で「確認テスト」ないし「課題」を課すので、特に復習に力をいれてほしい。			
〔成績評価の方法〕 期末試験と数回課す予定の「課題」ないし「確認テスト」の提出とでつけます。比率ですが、前者が 70%，後者が 30%です。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『科学技術史概論』山崎正勝ほか編著、ミイスリ出版、1985 年（購入の必要はありません）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問等は授業終了後に教室で受けつけます。			
〔特記事項〕			

科目名		気象と地球環境					
教員名		野津 雅人					
科目No.	120810210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 私たちが生活する上で無視することのできない自然現象である天気，すなわち気象・気候学を学び，論じることが本講義のテーマです．(1) 地学的・物理学的背景を直観的に理解し，より専門的な書籍に取り組む上での基盤を作ること，(2) 気象・気候学に関するフェイク情報に惑わされないしっかりとした知識を身につけること，が本講義の目標です． － 冒頭では，私たちの住む日本における気象の四季ごとの移り変わりを概観し，気象・気候現象の背景を学ぶためのきっかけを示していきます． － 第 9 回までは，上記の季節ごとの気象現象の背景を解説していきます． － 第 10～11 回では，目下最大の環境問題となっている気候変動を中心に，取り組むべき難しい課題や，気候「予測」・気象「予報」について解説していきます． － 第 12 回では，気象学の舞台である大気の周辺環境をなす固体地球の特徴（地形・火山・土壌・地震）についての説明を加えます．							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】（広い視野での思考・判断）・DP3【課題の発見と解決】（情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考）を実現するために，以下を到達目標とします： － 気象・気候学に関わる現象を図・イメージ・理論式から直観的に理解できるようになる． － 個々の気象・気候学に関わる現象や問題を，自分の知識を元に，適切な考察と情報収集を行い，議論できるようになる．							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス － 日本の四季と気象・海洋 － 現象の「スケール」の話 ～気象と気候			シラバスの確認		60	
第 2 回	－ 大気の運動（1） ～日本の冬を寒くする寒気と風の起源			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 3 回	－ 大気・海洋の観測 ～観察し測定するという基本			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 4 回	－ 水・雲・降水 ～ Grasp clouds with your head up in the clouds			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 5 回	－ 大気の熱力学 ～「上空に寒気が入るため不安定な天気」			前回の講義内容の復習		60	
第 6 回	－ 大気の運動（2） ～高・低気圧を西から東へ流していくもの			第 2 回講義内容を中心とした復習		60	
第 7 回	－ 温帯低気圧・台風・梅雨前線			第 4 回講義内容を中心とした復習		60	
第 8 回	－ 大気と海洋の相互作用 － 世界中をめぐる風			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 9 回	－ 温室効果と放射平衡・大気の上下構造 ～地球大気の気温を決めているもの			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 1 0 回	－ 気候変動 ～科学的にも社会的にも「不確定性」へのチャレンジ			ここまでの全ての講義内容の復習		60	
第 1 1 回	－ 天気予報と気候変動予測 ～6 万 4 千人の小人に会える夢でも見る？			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 1 2 回	－ 惑星としての固体地球の特徴 ～気候成立の背景			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 1 3 回	－ 講義全体のまとめ（1）			ここまでの全ての講義内容の復習		75	
第 1 4 回	－ 講義全体のまとめ（2） － 学期末到達度テスト			ここまでの全ての講義内容の復習		120	
〔授業の方法〕 ・ Course Power で配布する講義資料ファイルをプロジェクト投影しながら解説を行います． ・ レポート（宿題レポート，1 回予定）では講義で得た知識や自分で学んで得た知識を元に，自分なりの考察を行えることを評価します．講義中盤に宿題としてレポートを課します． ・ 2 回の講義に 1 回程度，講義内ミニレポートを課します．ミニレポートには簡単な演習を含みます．							

〔成績評価の方法〕 - 学期末到達度テスト (60%) - 宿題レポート (20%) - 平常点 (20%): 講義および講義内ミニレポートへの参加状況 (発言や質問なども含む)
〔成績評価の基準〕 - 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する. - Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. - 講義の到達目標に対応する以下の 2 項目への到達度に基づき評価します: ① 気象・気候学に関わる現象に対する地学的・物理学的背景を直観的に理解できるようになる ② ① で身につけた知識を元に, 個々の気象・気候学に関わる現象や問題に関して, 適切な情報を集め, 考察し論じ
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 本講義では指定しません.
〔参考書〕 - 『トコトン図解 気象学入門』, 釜堀弘隆氏・川村隆一氏, 講談社, 2860 円, ISBN 978-4-06-155239-5, 購入の必要なし - (読み物的な参考書)『雲を愛する技術』, 荒木健太郎氏, 光文社, 1320 円, ISBN 978-4-334-04329-2, 購入の必要なし - (ざっと予習したい人向け参考書)『文系のためのめっちゃやさしい天気』, 渡部雅浩氏, ニュートンプレス, 1650 円, ISBN 978-4-315-52447-5, 購入の必要なし
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 - 時々の状況に応じて講義内でお知らせするほか, 授業終了後に教室で受け付けます. - 質問等のメールアドレスは講義内でお知らせします.
〔特記事項〕

科目名	自然環境と文明						
教員名	松山 洋						
科目No.	120810310	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 地球の自然環境は複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきました。しかし人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じています。この講義では、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていきます。							
〔到達目標〕 D P 2（教養の修得、および広い視野での思考・判断）を実現するため、以下を到達目標とする。 過去の気候変動などが引き起こした文明や技術革新について理解を深め、自分の言葉で説明できる。 人間が環境変化に与えてきた影響について理解し、自分の言葉で説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	1) ガイダンス ・ この授業で学修することを説明する。 ・ 担当教員のプロモーションビデオを見て、どのような視点から授業が展開されるかを理解する。			【予習】この授業のシラバスを読む。 【復習】サイエンスチャンネル 未来を創る科学者達 (72) 水から見える地球の姿を見る。 http://sciencechannel.jst.go.jp/I026904/detail/I056904072.html		【予習・復習】60 分	
第 2 回	2) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その 1） ・ 「20 世紀最大の環境破壊」と言われた中央アジアのアラル海で起こってきた環境破壊について学修する。			【予習】『地球水環境と国際紛争の光と影-カスピ海・アラル海・死海と 21 世紀の中央アジア/ユーラシア』水文・水資源学会編集出版委員会編，信山社サイテック，2,752 円，ISBN-13: 978-4882615477 を読む。		【予習】90 分	
第 3 回	3) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その 2） ・ 乾燥地域で人々が暮らすための自然環境について学修する。 ・ 中央アジアのバルハシ湖では、隣接するアラル海と違って、なぜ大規模な環境破壊につながらなかったのかを学修する。			【予習】『図説・世界の地域問題』漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編，ナカニシヤ出版，2,625 円，ISBN-13: 978-4779502040 を読む。		【予習】90 分	
第 4 回	4) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その 3） ・ アマゾン川流域の熱帯林破壊について学修する。 ・ アマゾン川流域の熱帯林が流域内外の水循環に及ぼす影響について学修する。			【予習】『アマゾン-生態と開発-』西沢利栄・小池 洋一，岩波新書，609 円，ISBN-13: 978-4004302292 を読む。		【予習】90 分	
第 5 回	5) 4 大文明の話 ・ 「なぜ、5,000 年前に 4 大文明はあそこに成立したのか？」を学修する。 ・ 過去の気候について学ぶ前に、現代の気候はどのように形成されているのかを学修する。			【予習】『やさしい気候学-第 4 版-』仁科淳司，古今書院，2,600 円，ISBN-13: 978-4772285117 の 第 2～4 章を読む。		【予習】60 分	
第 6 回	6) 過去の気候 その 1 ・ 気候システム、およびその源となる太陽活動について学修する。 ・ 観測機器と古文書を用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『講座 文明と環境〈第 1 巻〉地球と文明の周期』小泉 格・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254106510。および『やさしい気候学-第 4 版-』仁科淳司，古今書院，2,600 円，ISBN-13: 978-4772285117 の 第 7 章を読む。		【予習】120 分	
第 7 回	7) 過去の気候 その 2 ・ 花粉、氷床コア、年輪、地形、プランクトンを用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『やさしい気候学-第 4 版-』仁科淳司，古今書院，2,600 円，ISBN-13: 978-4772285117 の 第 7 章をもう一度読む。		【予習】60 分	
第 8 回	8) 農耕と文明 その 1 ・ 農耕、および麦作の起源について学修する。 ・ 貧富の格差を生み出さない農耕のあり方（ブッシュマン）があることについても学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第 3 巻）農耕と文明』梅原 猛・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254105537 を読む。		【予習】90 分	
第 9 回	9) 農耕と文明 その 2 ・ 稲作の起源、および縄文時代から弥生時代への環境変化について学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第 3 巻）農耕と文明』梅原 猛・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254105537 および『魏志倭人伝、卑弥呼，日本書紀をつなぐ糸』野上道男，古今書院，2,625 円，ISBN-13: 978-4772231459 を読む。		【予習】120 分	
第 10 回	10) 農耕と文明 その 3 ・ マヤ文明を支えたトウモロコシ栽培、およびインカ文明を支えたジャガイモ栽培について学修する。			【予習】『マヤ文明-密林に栄えた石器文化』青山和夫，岩波新書，840 円 ISBN-13: 978-4004313649 および『ジャガイモのきた道-文明・飢饉・戦争』山本紀夫，岩波新書，777 円 ISBN-13: 978-4004311348 を読む。		【予習】120 分	
第 11 回	11) 火山噴火と文明 ・ 火山噴火のメカニズムについて学修する。 ・ 火山噴火が自然環境と文明に与えた影響について概観し、天明の飢饉を例にその実態について学修する。			【予習】『火山噴火と環境・文明』町田 洋・森脇広編，思文閣出版，2,460 円，ISBN-13: 978-4784208449 を読む。		【予習】90 分	
第 12 回	12) 森林と文明 ・ メソポタミア文明とミノア文明が森林を利用して繁栄し、森林が枯渇するとともに滅んでいったことについて学修する。			【予習】『講座 文明と環境〈第 9 巻〉森と文明』菅原 聡・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254106596 および『気候が文明を変える』安田喜憲，岩波書店，1,000 円，ISBN-10: 4000065076 を読む。		【予習】120 分	
第 13 回	13) 歴史時代の気候と文明 ・ 古墳寒冷期、中世の温暖期と小氷期に起こったできごとと自然環境との関係について学修する。			【予習】『尾瀬ヶ原の自然史』阪口 豊，中公新書，632 円，ISBN-13: 978-4121009289 および『講座 文明と環境〈第 6 巻〉歴史と気候』吉野正敏・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254106565 を読む。		【予習】120 分	

第 1 4 回	14) 将来の環境予測 ・地球温暖化にともなって、どのような環境変化が予測されているかについて学修する。 ・地球温暖化の話をする前に、「地球の気温はどう決まるか？」について説明する。	【予習】『IPCC AR6/WG1 報告書 政策決定者向け要約 (SPM) 暫定訳』を読む。 (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html からダウンロード可能です)	【予習】 90 分
〔授業の方法〕 配布資料は、授業のある週の月曜日には CoursePower に置きます (ただし、配布資料は一部がブランクになっています)。必要ならば、各自ダウンロードして紙に出力してから授業に臨んで下さい。授業では紙の資料を配布しません (小テストやコメントシートを除く)。 授業は Power Point を用いて進めます。授業で見せるスライドでは、配布資料中のブランクを外してあります。 予告なく、授業中に何回か小テストを行ったり、レポートを課したりします。これが成績評価の 50 % になります。 上			
〔成績評価の方法〕 授業中に何回か行なう小テスト・レポート (50%) と学期末試験 (50%) で成績をつけます。レポートを全て提出し、学期末試験を受けた方だけを成績評価の対象とします。小テスト・レポートは遅れてもよいので提出しましょう (ただし、遅れて提出した場合、得点は最高でも合格最低点になります)。 学期末試験は 50 点満点で採点し、小テスト・レポート (50 点) と合わせて 60 点以上を合格とします。 S: 90 点以上 A: 80～89 点 B: 70～79 点 C: 60～69 点 F: ～59 点			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠します。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度によって評価します。 ・小テスト・レポート、学期末試験について、授業で学んだことを述べることができる。 ・さらに自分の考えを述べることができる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：「環境と科学 (地球と環境)」 「自然地理学」 「地球環境問題」			
〔テキスト〕 購入する必要はありません。			
〔参考書〕 準備学修の箇所に具体的に記しましたが、それ以外の参考書を以下に挙げます。 『気候変化と人間～1 万年の歴史～』 鈴木秀夫, 原書房, 6,090 円, ISBN-13: 978-4562090532. 『気候の変化が言葉をかえた』 鈴木秀夫, 日本放送協会, 780 円, ISBN-13: 978-4140016077 『ジャガイモとインカ帝国-文明を生んだ植物』 山本紀夫, 4,410 円 ISBN-13: 978-4130633208 『高地文明ー「もう一つの四大文明」の発見』 山本紀夫, 1,155 円 I			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 質問や相談は、授業終了後の教室で受け付けます。または、電子メールを活用して下さい (メールアドレスは、授業の配布資料に掲載します)。			
〔特記事項〕			

科目名		日本列島の歴史と災害					
教員名		矢野 萌生					
科目No.	120810410	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 日本列島は日本人にとって文字通り生活の基盤となる大地である。日本列島の歴史については、明治時代以来の長い研究伝統があるが、これまで統一的な説明は出来なかった。近年の地球年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置付けがわかり、約 6 億年にわたる日本列島形成史が明らかになりつつある。本授業科目では、まず前半でそれらを理解するために必要な地球科学の基本的な知識の習得を目指す。後半では、日本列島に焦点を当てその特徴を理解するとともに、もたらされる恩恵と表裏一体で発生する災害について SDGs の観点も踏まえて考えることを目標とする。							
〔到達目標〕 地球科学の基礎的な知識を持つ。 日本列島の基本的な地球科学的性質が説明できる。 日本列島の形成史が説明できる。 日本列島で発生する災害やもたらされる恵みについて説明が出来る。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			シラバスを確認し、必要な学修内容を理解する。		60 分	
第 2 回	地球の形成と構造			大学入学までに地球について学んだことを振り返る。		60 分	
第 3 回	地球を作る物質			大学入学までに岩石や鉱物について学修したことを振り返る。		60 分	
第 4 回	プレートテクトニクス			大学入学までにプレートテクトニクスについて学修したことを振り返る。		60 分	
第 5 回	大気・海洋の大循環			大学入学までに気象や海洋について学修したことを振り返る。		60 分	
第 6 回	地球史			大学入学までに地球の歴史について学修したことを振り返る。		60 分	
第 7 回	鉱床と海底鉱物資源			大学入学までに資源について学修したことを振り返る。		60 分	
第 8 回	日本列島の地球科学			日本列島の地理・地形について予習する。		60 分	
第 9 回	日本列島の地震と災害			日本列島で発生する地震とそれによって起こる災害について予習する。		60 分	
第 1 0 回	日本列島の火山と災害			日本列島にある火山と噴火によって起こる災害について予習する。		60 分	
第 1 1 回	日本列島の気象災害			日本列島で発生する気象災害について予習する。		60 分	
第 1 2 回	日本列島と鉱山			かつて「黄金の国」と呼ばれた日本の歴史について学修したことを振り返る。		60 分	
第 1 3 回	日本の海底鉱物資源			近年の資源を巡るニュースや報道を検索し予習する。		60 分	
第 1 4 回	まとめと期末レポート提出			これまでの講義をまとめ、課題に取り組む。		60 分	
〔授業の方法〕 基礎知識についての講義と、適宜簡単な演習で構成し、画像や映像を多用する。 講義内容の概要を示したハンドアウトを配布する。 各回の最後に、学修内容の確認のための小テストを実施する。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の小テスト（約 30％）、演習課題提出物（約 30％）、および期末レポート（約 40％）により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

中学校・高等学校での理科および社会科（特に地理分野）の学習内容を前提とする。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

購入の必要はなし。
講義の中で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

ICT 活用

科目名		外国の自然と社会 A					
教員名		加賀美 雅弘					
科目No.	120810610	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 「食からみたヨーロッパの自然と社会」 本講義ではヨーロッパの自然と社会の特性を、ヨーロッパ特有の食に着目して考察します。そのために、ヨーロッパの食の変化を、①自然環境に規定されたローカルな食文化、②近代化に伴う社会格差の拡大と食の多様化、③工業化による食の大衆化、の 3 点に着目した説明を行い、地域の変化と関連づけた理解を深めます。なお、必要に応じて、日本との違いにも言及します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）、DP5（多様な人々との協働）を実現し、現代社会を地理的にとらえるために、以下の 3 点を到達目標とします。 ① 自然環境とともに社会の変化が多様な要因によって規定されることを学び、社会を多角的にとらえる視野を養う。 ② 今日のヨーロッパの社会が、ヨーロッパと世界との結びつきのなかで形成されてきたことを理解する。 ③ 日本の社会と対比することにより、世界各地の社会を相対的に見る視点を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	第 0 講 オリエンテーション ・授業の全体像、進め方などを説明する。 ・ヨーロッパの概略を説明する。			【予習】ヨーロッパの地図を見て、国の位置を理解しておく。 【復習】ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。		60	
第 2 回	第 1 講 食の地域差と文化・社会 ・世界の自然環境と人の暮らしの関係を、食の地域差に着目して説明する。			【予習・復習】世界の自然環境と農業・食の関係に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		80	
第 3 回	第 2 講 ヨーロッパの自然環境と食（1） ・自然環境と農業の関係を、コムギと油脂に着目した食文化に着目して説明する。			【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		80	
第 4 回	第 3 講 ヨーロッパの自然環境と食（2） ・北西ヨーロッパの自然環境と農業の関係を、豚肉と牛乳に着目して説明する。			【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		80	
第 5 回	第 4 講 社会的弱者のための食（1） ・貧困層の社会的地位を、トウモロコシに着目して解説する。 ・社会的弱者の特性を病気（ペラグラ）に着目して検討する。			【予習・復習】ヨーロッパの貧困層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		80	
第 6 回	第 5 講 社会的弱者のための食（2） ・貧困層の社会的地位を、ジャガイモについて解説する。 ・アイルランド飢饉から社会的弱者の特性を考察する。			【予習・復習】ジャガイモの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 7 回	第 6 講 現代ヨーロッパにおける社会的弱者 ・ロマ（いわゆるジプシー）の社会的状況について解説する。 ・差別・排除の構造について考察する。			【予習・復習】ロマに関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 8 回	第 7 講 富裕社会と食（1） ・富裕層の社会の特徴を、砂糖の歴史に着目して説明する。 ・砂糖の栽培と消費から世界の格差について考察する。			【予習・復習】砂糖の歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 9 回	第 8 講 富裕社会と食（2） ・富裕層の社会の特徴を、コーヒーの歴史に着目して説明する。 ・ヨーロッパの市民社会形成とコーヒーとの関係を論じる。			【予習・復習】コーヒーの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 1 0 回	第 9 講 富裕社会と食（3） 近代化で変わった食 ・富裕層の社会の特徴を、ミネラルウォーターの歴史に着目して説明する。 ・ステイタスシンボルとしての飲料水について解説する。			【予習・復習】近代化と富裕層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 1 1 回	第 10 講 グローバル社会と食（1） ・富裕層の社会の特徴を、チョコレートの歴史に着目して解説する。 ・工業化によるチョコレートの大衆化を説明する。			【予習・復習】チョコレートの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 1 2 回	第 11 講 グローバル社会と食（2） ・自然環境に規定された農産加工品の特徴を、ビールに着目して説明する。 ・工業化によるビールのグローバル化を解説する。			【予習・復習】ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 1 3 回	第 12 講 グローバル社会と食（3） ・流入する外国人の社会を、エスニック料理に着目して解説する。 ・エスニックタウンの特徴について説明する。			【予習・復習】ヨーロッパで増加する外国人に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 1 4 回	まとめ			【予習・復習】授業内容を整理し、ヨーロッパ社会に関する理解を進める。		100	
〔授業の方法〕 授業は、内容を整理したパワーポイントを使用して行い、講義内容の理解をはかります。また、毎時間に課題を課し、リアクションペーパーの執筆を求めます。これによって学習内容の理解度を確認します。							

〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しないため、「平常点（毎回の授業で課す課題の提出内容）：100％」で成績評価します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の点について、その達成度により評価します。 ①ヨーロッパにおける自然環境と人の暮らしの関係を理解している。 ②食との関わりから、ヨーロッパの社会の変化を理解している。 ③食との関わりから、世界におけるヨーロッパ社会の特徴を理解している。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ヨーロッパの国名と地名について、地図帳を利用して把握しておいてください。
〔テキスト〕 『食で読み解くヨーロッパ―地理研究の現場から―』 加賀美雅弘著，朝倉書店，3000 円+税，ISBN978-4-254-16360-5
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		外国の自然と社会 B					
教員名		宋 苑瑞					
科目No.	120810710	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 オンライン(前期)
〔テーマ・概要〕 この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになっている。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生起している地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。							
〔到達目標〕 DP 2 【教養の修得】(広い視野での思考・判断)、および DP 5 【多様な人々との協働】(コミュニケーション+協調性+チームワーク) を実現するため、以下の到達目標とします。 アジア地域の各国の文化の違いや自然環境の違いを学び、今後の発展可能性について理解できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第 1 回	イントロダクション			特になし		60	
第 2 回	地理的思考			レポート①		60	
第 3 回	外国から見た日本			キーワードのまとめ		60	
第 4 回	韓国 (1) 韓国の社会と文化			キーワードのまとめ		60	
第 5 回	韓国 (2) 韓国と北朝鮮			キーワードのまとめ		60	
第 6 回	中国 (1) 中国の社会と文化			キーワードのまとめ		60	
第 7 回	中国 (2) 中国の経済			キーワードのまとめ		60	
第 8 回	香港・マカオ・台湾 文化と自然環境			キーワードのまとめ		60	
第 9 回	タイ タイの文化と都市問題			キーワードのまとめ		60	
第 1 0 回	ベトナム ベトナムの社会と経済			キーワードのまとめ		60	
第 1 1 回	フィリピン フィリピンの産業と環境			キーワードのまとめ		60	
第 1 2 回	マレーシア マレー半島の社会と宗教			キーワードのまとめ		60	
第 1 3 回	シンガポール シンガポールの社会と環境			キーワードのまとめ		60	
第 1 4 回	インドネシア インドネシアの文化と環境			キーワードのまとめ		60	
〔授業の方法〕 配布資料は Course Power にアップロードします。 授業と連動しツイッターで授業内容や情報を発信します。							
〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。 平常点 20% レポート 80%							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 特に以下の点の達成度に基づく。 ①アジア地域の各国の文化の違いや自然環境の違いへの理解力 ②アジア地域の今後の発展可能性に関する理解力
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 『図説 世界の地域問題 100』 漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編, ナカニシヤ出版, 2970 円, ISBN: 978-4779516139 https://www.amazon.co.jp/dp/4779516137/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_MPZ95QXKJDC1Y6CFCBG 『世界地誌シリーズ 東南アジア・オセアニア』 菊地俊夫・小田宏信編, 朝倉書店, 3740 円, ISBN: 978-4254169270 https://www.amazon.co.jp/dp/42
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 オンラインで受け付けます。
〔特記事項〕 ・アクティブ・ラーニング ・情報リテラシー教育科目 ・ICT活用 https://twitter.com/seikeigeo2024

科目名		地域づくり論					
教員名		小室 譲					
科目No.	120810810	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 観光産業は、人口減少や産業の空洞化が進行して久しい現代の日本において、外貨を獲得し、地域の交流人口を増やす有望な産業として位置づけられています。その一方で、昨今の国内観光地をめぐる観光振興（オーバーツーリズムなど）や観光危機（疫病や経済危機など）の発生、環境保全と地域振興の両立など、持続可能でレジリエントな観光地づくりに向けて多くの課題を抱えています。こうした中、本授業では日本の観光地政策の沿革を頭に入れたうえで、主に地方圏観光地におけるケーススタディを通じて、実際の観光地が持続可能な地域経済社会の実現に向けてどのような地域づくりを実践しているのかを学習します。あわせて、受講者のみなさんには事例地域を決めていただき、各地域における観光地づくりの実践例を調査して報告していただく予定です。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）および DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。 （1）日本の観光に関連した地域政策の沿革や昨今の状況について、概要を理解できる。 （2）各地域に固有の課題と固有の資源に着目して持続可能な地域づくりを構想する視点を獲得できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス（持続可能な観光地と地域づくり論）			シラバスを確認する		60	
第 2 回	日本の観光政策の変遷			前回の復習		60	
第 3 回	日本の観光地課題を考える（グループワーク）			前回の復習		60	
第 4 回	山岳観光地における地域づくり（国際リゾートのケーススタディ）			前回の復習		60	
第 5 回	離島観光地における観光開発と環境問題			前回の復習		60	
第 6 回	離島観光地におけるオーバーツーリズムと雇用問題			前回の復習		60	
第 7 回	離島観光地における過去の教訓（ケーススタディ）			前回の復習		60	
第 8 回	最終発表に向けたテーマ設定と指標の確認			前回の復習		60	
第 9 回	現地データの収集			収集データの整理		90	
第 1 0 回	現地データの整理と分析			収集データの整理		90	
第 1 1 回	次回発表に関する中間報告			前回の復習/事例紹介の準備		90	
第 1 2 回	最終発表会(1)			前回の復習/事例紹介の準備		60	
第 1 3 回	最終発表会(2)			前回の復習/事例紹介の準備		60	
第 1 4 回	まとめ（発表会のふりかえり）			自身/他者の発表に対するふりかえり		60	
〔授業の方法〕 講義および演習の形式を併用します。小課題を課す場合もあります。							
〔成績評価の方法〕							

平常点評価 100%（授業内の発言や小課題、グループワークの参加、発表演習）
〔成績評価の基準〕 上記の評価法で、成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目：「日本の国土と社会」を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。
〔テキスト〕 必要に応じて、授業内で紹介します。
〔参考書〕 必要に応じて、授業内で紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア A <1>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 19 世紀から 20 世紀にわたって、日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナムといった東アジア諸国は既存の伝統統治システムから近代国際秩序への転換を迫られ、欧米諸国の影響のもと近代国家を目指した。東アジアの「近代化」の歴史は、現代社会の諸問題とどのように接続されているだろうか。本講義では、その基層的な歴史背景を理解するため、下記のテキストを用いて、伝統中国の王朝体制から近代の国家統一までを概観しつつ、日本と中国を中心とする帝国主義による国家像の再編や東南アジアの国家統合といった東アジアの近代ナショナリズムの形成について学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ① 東アジアの伝統から近代へ転換する歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。 ② 日本と中国の関わりを近世・近代の国際情勢の変化から理解する。 ③ 東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・中国の歴史地理的な把握（1）： 中国や東アジアの世界の伝統的な特質を自然地理・文化的視点から概観する。			予習：テキスト①1, 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・中国の歴史地理的な把握（2）： 長江と黄河という二大河川を中心とする陸の世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・中国南北の環境とモノの流通： 南北で異なる中国の世界をモノの流通から学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・朝貢と外交： 歴史的な中国の朝貢体制と東アジアの海域世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 23 章・56 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・東南アジアと革命運動： 英領マラヤの成立と華人の繋がりを学ぶ。			予習：テキスト①39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・中国社会の公共秩序の特質： 中国の農村や都市の歴史的な特質について学ぶ。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・近代の出会い： 太平天国の乱を通じた中国伝統社会と近代との相克を学ぶ。			予習：テキスト①第 32 章、33 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・中国社会と女性： 現代中国と伝統中国における女性のあり方を歴史的に概観する。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・近代中国の救国と国家建設： 清末の国内改革から民国初期に至る国家建設の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 34、38、39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・日中戦争と日本の侵略全面化： 1930 年代の日本の華北侵出と中国や諸外国の政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・ことばと近代： 近代東アジアの国家建設と国語の成立について学ぶ			予習：テキスト①59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・近代日本と台湾統治： 20 世紀前半の台湾と日本の歴史について学ぶ			予習：テキスト①第 59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕							

2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

①東アジア史における基本的な理解ができているか。

②近世・近代における東アジアの国際情勢を把握し、近現代日中関係との繋がりや現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

授業内容をより深く理解するため、中国史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）

② 並木頼寿著『東アジアに「近代」を問う』（研文出版、2010 年）

③ 吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19 世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010 年）

④ 川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）

⑤ 石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア A<2>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820220	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 19 世紀から 20 世紀にわたって、日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナムといった東アジア諸国は既存の伝統統治システムから近代国際秩序への転換を迫られ、欧米諸国の影響のもと近代国家を目指した。東アジアの「近代化」の歴史は、現代社会の諸問題とどのように接続されているだろうか。本講義では、その基層的な歴史背景を理解するため、下記のテキストを用いて、伝統中国の王朝体制から近代の国家統一までを概観しつつ、日本と中国を中心とする帝国主義による国家像の再編や東南アジアの国家統合といった東アジアの近代ナショナリズムの形成について学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ① 東アジアの伝統から近代へ転換する歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。 ② 日本と中国の関わりを近世・近代の国際情勢の変化から理解する。 ③ 東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・中国の歴史地理的な把握（1）： 中国や東アジアの世界の伝統的な特質を自然地理・文化的視点から概観する。			予習：テキスト①1, 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・中国の歴史地理的な把握（2）： 長江と黄河という二大河川を中心とする陸の世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・中国南北の環境とモノの流通： 南北で異なる中国の世界をモノの流通から学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・朝貢と外交： 歴史的な中国の朝貢体制と東アジアの海域世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 23 章・56 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・東南アジアと革命運動： 英領マラヤの成立と華人の繋がりを学ぶ。			予習：テキスト①39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・中国社会の公共秩序の特質： 中国の農村や都市の歴史的な特質について学ぶ。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・近代の出会い： 太平天国の乱を通じた中国伝統社会と近代との相克を学ぶ。			予習：テキスト①第 32 章、33 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・中国社会と女性： 現代中国と伝統中国における女性のあり方を歴史的に概観する。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・近代中国の救国と国家建設： 清末の国内改革から民国初期に至る国家建設の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 34、38、39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・日中戦争と日本の侵略全面化： 1930 年代の日本の華北侵出と中国や諸外国の政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・ことばと近代： 近代東アジアの国家建設と国語の成立について学ぶ			予習：テキスト①59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・近代日本と台湾統治： 20 世紀前半の台湾と日本の歴史について学ぶ			予習：テキスト①第 59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕							

2 回の課題レポートの提出（60％）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40％）による総合評価とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

①東アジア史における基本的な理解ができているか。

②近世・近代における東アジアの国際情勢を把握し、近現代日中関係との繋がりや現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

授業内容をより深く理解するため、中国史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）

② 並木頼寿著『東アジアに「近代」を問う』（研文出版、2010 年）

③ 吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19 世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010 年）

④ 川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）

⑤ 石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア B <1>					
教員名		小武海　　櫻子					
科目No.	120820310	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、日本と関係の深い国の一つである中国の政治・社会・文化的特質を近現代的な歴史文脈から理解する。前期に引き続き下記のテキストを用いて、20 世紀初頭から 21 世紀現在に至る中国の接続と変容を概観しながら、近現代東アジア地域の歴史的な国際関係を学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ①近現代東アジアの歴史を中国を中心に把握し、基礎的な知識を身につける。 ②近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。 ③東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 前期の復習			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・近現代中国の「民主」と革命： 中国の国家建設と「民主」理解について学ぶ。			予習：テキスト①第 39、42 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・20 世紀初頭の革命と議会政治： 民国初期中国の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第 49 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・ヨーロッパの社会主義： 19 世紀西欧の社会主義形成の歴史的背景を学ぶ。			予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・近代の社会主義と東アジア： 社会主義の歴史的形成と東アジアでの発展の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・日中戦争までの道のり（1）： 1930 年代ナショナリズムの勃興と初期中国共産党の発展について学ぶ。			予習：テキスト①第 43、44 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・日中戦争までの道のり（2） 1940 年代の中国社会と歴史的な政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・日中戦争と太平洋戦争： 1940 年代の中国を中心とする戦時下の社会を学ぶ。			予習：テキスト①44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・終戦後の新中国成立： 終戦後の中国国内外の政治の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 46 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・社会主義への挑戦： 毛沢東の目指した実践と 1960 年代までの中国を取り巻く国際環境について学ぶ。			予習：テキスト①第 47、48 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（1）： 終戦後東アジアにおける国家再編と国籍の問題について学ぶ。			予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（2）： 中華民国を中心とした華人社会と東アジア諸地域との関係を学ぶ。			予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・東アジアの政治運動と国家： 東アジアに広まる民衆による政治運動とその背景を学ぶ。			予習：テキスト①第 51 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進捗によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕 2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。 ②20 世紀東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。
〔テキスト〕 購入の必要なし
〔参考書〕 ①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年） ②高原明生等『開発主義の時代へ 1972-2014（シリーズ中国近現代史⑤）』（岩波書店、2014 年） ③川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年） ④石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア B <2>					
教員名		小武海　　櫻子					
科目No.	120820320	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、日本と関係の深い国の一つである中国の政治・社会・文化的特質を近現代的な歴史文脈から理解する。前期に引き続き下記のテキストを用いて、20 世紀初頭から 21 世紀現在に至る中国の接続と変容を概観しながら、近現代東アジア地域の歴史的な国際関係を学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ①近現代東アジアの歴史を中国を中心に把握し、基礎的な知識を身につける。 ②近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。 ③東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 前期の復習			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・近現代中国の「民主」と革命： 中国の国家建設と「民主」理解について学ぶ。			予習：テキスト①第 39、42 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・20 世紀初頭の革命と議会政治： 民国初期中国の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第 49 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・ヨーロッパの社会主義： 19 世紀西欧の社会主義形成の歴史的背景を学ぶ。			予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・近代の社会主義と東アジア： 社会主義の歴史的形成と東アジアでの発展の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・日中戦争までの道のり（1）： 1930 年代ナショナリズムの勃興と初期中国共産党の発展について学ぶ。			予習：テキスト①第 43、44 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・日中戦争までの道のり（2） 1940 年代の中国社会と歴史的な政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・日中戦争と太平洋戦争： 1940 年代の中国を中心とする戦時下の社会を学ぶ。			予習：テキスト①44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・終戦後の新中国成立： 終戦後の中国国内外の政治の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 46 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・社会主義への挑戦： 毛沢東の目指した実践と 1960 年代までの中国を取り巻く国際環境について学ぶ。			予習：テキスト①第 47、48 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（1）： 終戦後東アジアにおける国家再編と国籍の問題について学ぶ。			予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（2）： 中華民国を中心とした華人社会と東アジア諸地域との関係を学ぶ。			予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・東アジアの政治運動と国家： 東アジアに広まる民衆による政治運動とその背景を学ぶ。			予習：テキスト①第 51 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕 2 回の課題レポートの提出（60％）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40％）による総合評価とする。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。 ②20 世紀東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。
〔テキスト〕 購入の必要なし
〔参考書〕 ①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年） ②高原明生等『開発主義の時代へ 1972-2014（シリーズ中国近現代史⑤）』（岩波書店、2014 年） ③川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年） ④石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米 A <1>					
教員名		佐伯 哲朗					
科目No.	120820410	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18 世紀末のアメリカとフランスの革命から 19 世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。							
〔到達目標〕 欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものの見方を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	授業の概要、歴史とは何か			配布プリントを読む。第 1 回については授業後の復習となる。		60	
第 2 回	イギリス領北米 13 植民地			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、3-34 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 3 回	アメリカ合衆国の独立			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、35-45 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 4 回	フランス史の基礎知識、1789 年の革命			遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、40-86 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 5 回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落			遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、87-128 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 6 回	フランス革命の意義			遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、128-190 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 7 回	1848 年革命、ドイツ統一			小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、112-120 頁、145-147 頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22 巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、76-160 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 8 回	ジェントルマンの支配体制			谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22 巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、368-377 頁、384-390 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 9 回	産業資本主義の発展			谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22 巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、360-383 頁、川北稔編『イギリス史』（山川出版社）、245-255 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 10 回	ドイツ第二帝政の政治支配			大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、1-58 頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、204-232 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 11 回	ビスマルクの国内政策			大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、58-87 頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、232-242 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 12 回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義			木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、243-278 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 13 回	フランス第三共和制の危機			谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房）、153-163 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 14 回	ヨーロッパ諸国の植民地支配			小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、191-199 頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、13-47 頁、を熟読する。配布プリントを読む。		90	
〔授業の方法〕 プリントを配布するか、板書するか、どちらかの方法によって授業を進める。これまでの受講者の希望としては、圧倒的にプリント配布の希望が多いが、この点については、第 1 回目の授業の最初に受講者の希望を聞いて決定する。授業の最初と最後に、若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了時に当日の授業内容について、考えたこと、感じたことなどを紙に書いて提出してもらう。							
〔成績評価の方法〕							

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

各回の授業終了時に、その回の授業内容について考えたこと、感じたことをまとめて課題として提出する。各回を10点満点とし、14回で140点満点とする。これを平常点とする。また、学期末に授業全体についてのレポートを提出してもらい、このレポートを60点満点とする。その2つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、学期末課題レポートが60点満点で30%、各回のリアクションペーパーの合計が140点満点で70%とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点を踏まえて評価する。課題レポート、リアクションペーパーの記述内容から、授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

次のような文献があるが、購入することを想定していない。有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（1、2巻）山川出版社、1993～94年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（3巻）山川出版社、1991年。柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『フランス史』（2、3巻）山川出版社、1995～96年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（2、3巻）山川出版社、1996～97年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。また、質問用紙に質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。

〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米A<2>					
教員名		中島 幹人					
科目No.	120820420	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらいたいことをめざす。本講義ではとくに、17 世紀以降の主権国家の成立から 18 世紀末のアメリカとフランスの革命、そして近代社会の基礎を形作ることとなったイギリス産業革命までの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。							
〔到達目標〕 本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、以下の目標を設定する。 ①現代市民社会を生み出した歴史的事件の推移の基本的な知識を獲得する ②その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入			あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60 分	
第 2 回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 3 回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 4 回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 5 回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 6 回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①（イギリス第一帝国の再編と反対運動）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 7 回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②（共和国の樹立に向けて）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 8 回	フランス革命(1)：18 世紀における旧体制の変質（経済的発展とブルジョワジーの伸展）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 9 回	フランス革命(2)：革命的状況の醸成（「世論」の興隆）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 0 回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から 1789 年まで）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 1 回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791 年憲法体制から統領政府まで）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 2 回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 3 回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎と展開			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 4 回	産業資本主義の発展(2)：産業革命による社会の変化			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
〔授業の方法〕 「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。その上で、授業最後に選択式のプチテストを行う。							
〔成績評価の方法〕 成績評価については、以下の通りである ①学期末の試験期間中に実施する「学期末試験」を 70% ②平常点（授業への参加状況やプチテストの成績など）を 30% （ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外となる）。							

学期末試験の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的に説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時（第 1 回授業）にて提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕
特定のテキストは使用しない。授業テーマに即したレジュメを配布し、それを参照しながら授業を進める。

〔参考書〕
杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房、2015 年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』 ミネルヴァ書房、2011 年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』 ミネルヴァ書房、2006 年
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18 世紀から現代まで-』 ミネルヴァ書房、2005 年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』 ミネルヴァ書房、2003 年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』 ミネ

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後やポータルサイトにて質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米B<1>					
教員名		佐伯 哲朗					
科目No.	120820510	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20 世紀初頭の時期から 20 世紀中葉の第 2 次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。							
〔到達目標〕 欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。 ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	第 1 次大戦の原因とバルカン問題			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、43-46 頁、柴宜弘編『バルカン史』（山川出版社）、196―217 頁、225-241 を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 2 回	世界戦争への道、ドイツの国内事情			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、46-54 頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26 巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、30-39 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 3 回	開戦時の国内体制			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、54-75 頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、167-169 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 4 回	戦争への動員			若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、170-175 頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、67-89 頁、および配布プリントを熟読する。		90	
第 5 回	大戦期ドイツの日常生活			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、86-89 頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、175-177 頁、藤原辰史『カブラの冬』（人文書院）を熟読する。		90	
第 6 回	戦争の終結			若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、177-187、193-195 頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、90-95 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 7 回	戦争の帰結			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、170-205 頁、木村靖二『二つの世界大戦』（山川出版社）、28-41 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 8 回	ロシア革命			和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、278-310 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 9 回	ヴェルサイユ体制			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、205-217 頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』（中央公論新社）、3-258 頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、95-97 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 1 0 回	1920 年代アメリカの明暗、世界恐慌			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、171-193 頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26 巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、89-211、289-308 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 1 1 回	ナチズムの思想と運動			石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、20-112 頁、山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、1-22 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第 1 2 回	ナチズム、一党独裁体制の成立			石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、114-181 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 1 3 回	「民族共同体」の建設			山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、36-42 頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、254-309 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第 1 4 回	第 2 次世界大戦			成瀬治ほか編『ドイツ史 3 巻』（山川出版社）273-319 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
〔授業の方法〕 上記の内容について講義する。プリントを配布するか、黒板に板書するか、いずれかの方式をとるが、最初の授業の時に受講者に希望を聞いて決定する。これまでの受講者の希望を聞く限りでは、プリント配布の希望が多い。授業の最初と最後に若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了時に当日の授業内容について、考えたこと、感じたことなどを紙に書いて提出してもらう。							
〔成績評価の方法〕 各回の授業終了時に授業内容について考えたこと、感じたことを紙に書いて提出してもらう。各回を 1 0 点満点とし、1 4 回で 1 4 0 点満点とする。これを平常点とする。また学期末に授業全体についてのレポートを提出してもらい、このレポートを 6 0 点満点とする。その 2 つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、学期末課題レポートが 6 0 点満点で 3 0 %、各回のリアクションペーパーの合計が 1 4 0 点満点で 7 0 % とする。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点を踏まえて評価する。課題レポート、リアクションペーパーの記述内容から授業内容を理解したかどうかを判断する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 前期に「近現代の欧米 A」を履修していることが望ましい。
〔テキスト〕 使用しない。
〔参考書〕 近現代の欧米 A（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。そのほかには、木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014 年。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。リアクション・ペーパーで提出された質問については、次回の授業の最初に回答する。
〔特記事項〕

※取組終了後には必ずこのページは変更となる場合があります。

科目名		近現代の欧米 B <2>					
教員名		中島 幹人					
科目No.	120820520	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらいたいことをめざす。本講義ではとくに、フランス革命以降の 19 世紀ヨーロッパの歴史（前半のウィーン体制、後半における国民国家の形成）、独立戦争以降のアメリカの社会的変化、および 19 世紀末の帝国主義時代とそれに起因する世界大戦までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。							
〔到達目標〕 本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、①現代に直接連なる 19 世紀から 20 世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、②その知識から自ら現代社会を相対化しうる視点を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明			あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60 分	
第 2 回	19 世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 3 回	19 世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動揺と崩壊			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 4 回	19 世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 5 回	19 世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隷制度と南北戦争			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 6 回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設（①イタリア）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 7 回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設（②ドイツ）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 8 回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 9 回	19 世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 0 回	19 世紀後半のアメリカ社会(2)：「金びか時代」			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 1 回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義①（ヨーロッパの拡大と国際経済）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 2 回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義②（拡大の論理：「他者」認識と国民）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 3 回	帝国主義と第一次世界大戦(3)：大戦の経過とその帰結			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 4 回	授業の総括			授業において使用したレジュメを確認・復習しておくこと		60 分	
〔授業の方法〕 「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを予め配布し、それらを参照しながら講義を進める。また、授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。そして、授業の最後に選択式のブチテストを行う。							
〔成績評価の方法〕 成績評価については、以下の通りである ①学期末の試験期間中に実施する「学期末試験」（到達度確認テスト）を 70％ ②平常点（授業への参加状況やブチテストの成績など）を 30％ （ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外となる）。							

学期末試験（到達度確認テスト）の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的に説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時（第 1 回授業）にて提示する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

〔参考書〕

以下に挙げる文献は授業の理解を深めてもらうための参考書であり、購入の必要はない。
 杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015 年
 大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998 年
 小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011 年
 村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003 年
 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後やポータルサイトにて質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		中東地域史					
教員名		永島 育					
科目No.	120820610	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、中東を中心にひろがるイスラーム世界について、軍事史の視点を軸にしつつ、通史的な知識を得ることを目指す。現在、世界有数の紛争地帯を抱えるイスラーム世界であるが、そのために「イスラームは好戦的な宗教である」という偏見が存在している。こうしたイメージに晒されるイスラーム世界と共生するためには、イスラーム世界と軍事とのかかわりの実態を歴史的に把握し、偏見を払拭することが求められている。そこで、軍事、戦争がイスラーム世界の政治・社会・文化的展開に与えた変化について見ていくことで、今日のイスラーム世界が抱える紛争という課題の考察に機会を与えるような講義を行う。							
〔到達目標〕 DP2-1（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とします。 ・イスラーム成立から現代まで、イスラーム世界がたどった歴史をおおまかに把握する。 ・各時代・地域における軍事や戦争の特色、イスラーム世界の歴史に与えた影響を理解する。 ・歴史に根差した長期的視野を持つことで「好戦的なイスラーム」像を考え直す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イスラームは「テロリストたちの宗教」か？			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 2 回	イスラームのはじまり			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 3 回	イスラームのひろがり			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 4 回	マムルークの騎兵たち			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 5 回	イスラームから見た十字軍			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 6 回	イスラームから見たモンゴル帝国			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 7 回	火薬帝国			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 8 回	軍事革命			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 9 回	国民の歩兵と砲兵たち			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 0 回	難民の時代			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 1 回	総力戦の時代			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 2 回	テロリズム			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 3 回	映像資料視聴			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 4 回	イスラームの軍事と将来、並びに到達度確認テスト			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
〔授業の方法〕 ・配布するレジュメ、並びにパワーポイントをもとに講義を行います。 ・到達度確認テストは、講義の進度によってテスト期間中に行われる可能性があります。							
〔成績評価の方法〕							

・授業期間中の受講態度（30％） ・到達度確認テスト（70％）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ・イスラーム世界の歴史について把握したか。 ・軍事や戦争がイスラーム世界の歴史に与えた影響を理解したか。 ・イスラームに対する中立的な見方を獲得したか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 講義中に参考文献を示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		現代の国際政治					
教員名		昇 亜美子					
科目No.	120820710	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 本講義は、現代の国際政治を理解するための視角と基本的知識を養うことを目的とする。 前半は、「どうして戦争は起こるのだろうか」という問いについて、理論と歴史の両面から考えていく。特に、今日大きな問題となっているロシアのウクライナ侵攻や米中対立を重点的に取り上げながら議論を進める。国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうかといったことについても考える。 後半は、「グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか」という問いについて議論する。特に、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDG s）」について取り上げ、各目標について考えていく。							
〔到達目標〕 現代の国際政治について、「何故そのような事象が起きるのか」を分析する社会科学的な視角を養うこと。また、国際関係理論と歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治に関心を持ち、日々のニュースに敏感になり、国際社会とのかかわりの重要性を意識できるようになること。 日本がどのような外交を展開すべきかについて主体的に考えることが出来るようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクションー国際政治とはなにか 近代国際政治のコンセプトや国内政治との違いなどを学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 2 回	戦争の原因ー国際システムレベル：リアリズムの概念			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 3 回	戦争の原因ー国際システムレベル：パワー概念、勢力均衡と同盟			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 4 回	戦争の原因ー二国間関係：経済的相互依存、交渉モデル			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 5 回	戦争の原因ー国家・社会レベル：民主的平和、国内紛争の転嫁			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 6 回	戦争の原因ー個人レベル：心理的モデル			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 7 回	第一次世界大戦とヴェルサイユ体制			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 8 回	集団安全保障の挫折と第二次世界大戦			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 9 回	冷戦 戦後から 1990 年代まで継続した冷戦構造について概観する。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 0 回	持続可能な開発目標（SDG s） 17 の目標を概観しながら、貧困の撲滅に対するアプローチの変遷や国連、日本政府の取り組みについて学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 1 回	環境問題、食料安全保障、エネルギー安全保障			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 2 回	国境を越える人々 複雑になりつつある移民、難民の問題について取り上げる。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 3 回	ジェンダーをめぐる問題 テロや紛争による不安定な国家情勢は、女性や女兒に特に大きな影響を及ぼすことが多いといった問題について学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 4 回	米中対立と国際秩序 米国の孤立主義的傾向、中国の台頭により起きている米中間の覇権争いが、国際秩序に与える影響について学ぶ。中国の人権問題に対する日本を含む先進国の対応についても考える。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
〔授業の方法〕 講義方式で行なう。リアクションレポートを実施することがある。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況） 10% レポート 90%	
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.	
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし	
〔テキスト〕 特になし	
〔参考書〕 講義時に伝える。	
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 メールで受け付ける。詳細は講義時に伝える。	
〔特記事項〕	

科目名		グローバル経済論					
教員名		清水 政行					
科目No.	120820810	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 経済のグローバル化が進展する中で、経済的に発展している国とそうでない国が併存し、経済格差の拡大が大きな問題の一つとなっている。本講義では、「持続的な発展のためには何が必要か」をテーマに、“開発経済学“的な考え方を紹介しながら、途上国の経済発展に関わる課題について学習する。また、経済学の基礎的なモデルや国別のデータを利用しながら、先進国との比較を通じて理解を深めていく。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）および DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 経済学的な視点から、持続的な発展のために重要なメカニズムを理解することができる。 2. 経済学的な観点から、持続的な発展のために必要なアプローチを考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ：経済・社会問題の考え方			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 2 回	開発途上国の経済発展 ：開発経済学的な考え方 [テキスト：戸堂（2021）1 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 3 回	新古典派経済成長論 ：経済成長の仕組み① [テキスト：戸堂（2021）2 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 4 回	内生的経済成長論 ：経済成長の仕組み② [テキスト：戸堂（2021）3 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 5 回	貧困の罠 ：経済停滞の原因① [テキスト：戸堂（2021）4 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 6 回	中所得国の罠 ：経済停滞の原因② [テキスト：戸堂（2021）5 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 7 回	国際貿易・海外直接投資 ：経済成長の要因① [テキスト：戸堂（2021）6 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 8 回	産業集積 ：経済成長の要因② [テキスト：戸堂（2021）7 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 9 回	社会関係資本・社会ネットワーク ：経済成長の要因③ [テキスト：戸堂（2021）8 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 0 回	社会・経済制度 ：経済制度の役割① [テキスト：戸堂（2021）9 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 1 回	経済発展の政治経済学 ：経済制度の役割② [テキスト：戸堂（2021）10 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 2 回	農村開発 ：経済開発のあり方① [テキスト：戸堂（2021）11 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 3 回	農村金融 ：経済開発のあり方② [テキスト：戸堂（2021）12 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 4 回	経済協力 ：経済開発のあり方③ [テキスト：戸堂（2021）13 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
〔授業の方法〕 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。毎回、授業の最後に CoursePower 上から授業のコメントを入力してもらう。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。

1. 経済学的な視点から、持続的な発展のために重要なメカニズムを理解することができる。
2. 経済学的な観点から、持続的な発展のために必要なアプローチを考察することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
基礎的なマクロ経済学関連の科目を履修中もしくは履修済みである方が望ましい。

〔テキスト〕
戸堂康之『開発経済学入門 第 2 版』新世社 2021 年（2,600 円＋税）

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名	国際文化交流論						
教員名	菅野 幸子						
科目No.	120820910	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 本科目では、混迷、複雑化する国際情勢において、平和で豊かな世界の実現に向けて活動する日本及び諸外国の国際文化交流機関の活動事例や内外の国際文化交流活動の事例を通じて、21 世紀における国際文化交流の在り方を探る。講義では、日本及び英国を代表する国際文化交流機関での実務経験に基づき、具体的かつ多様な国際文化交流活動の事例を提示しつつ、国際文化の歴史的展開、理念、意義と役割、将来の在り方考察する。また、本テーマに関連し拡張する文化の概念、文化外交、文化多様性についても考察する。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】，DP3【課題の発見と解決】，DP4【表現力、発信力】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 1. DP2-1【教養の修得】を実現するため、国際文化交流に関する基礎的な知識を得るとともに、国際文化交流に関する最新の動向や理論を習得できる。 2. DP3-1【課題の発見と解決】を実現するため、文化の特質に関する概念把握、研究や議論の広がりを見極め、自らの議論を発展させることができる。 3. DP4-1【表現力、発信力】を実現するため、国際人として行動する上で必要となる世							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス、序論（国際文化交流の理念） 本講義の概要及び講義方法についてのガイダンスを実施。また、国際文化交流の序論として、その理念を考察する。			シラバスを通読し、国際文化交流全般に関する各自の問題意識を整理しておく。特に、「国際交流」、「国際協力」、「文化交流」、「文化多様性」などの概念及びその関係性について考えておくこと。		60	
第2回	国際文化交流の歴史1（20世紀以前） シルクロードなど東西交易の時代から20世紀に至るまでの国際文化交流の歴史を概観するとともに、国際文化交流の発展の起点となった歴史的な出来事を考察する。			日本が海外との交流により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えてきたかを考えておくこと。		60	
第3回	国際文化交流の歴史2（20世紀以降～現代） 20世紀初頭から現代にいたるまでの国際文化交流の歴史を概観するとともに、ジャポニズムや近代オリンピックなど近代から現代に至る国際文化交流の歴史的起点を考察する。			日本が海外との交流により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えてきたかを考えておくこと。		60	
第4回	ソフト・パワーとパブリック・ディプロマシー 現在の文化外交及び国際文化交流に関する政策の背景にある理論として、ソフト・パワー論及びパブリック・ディプロマシー論を考察する。			参考文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習しておくこと。		60	
第5回	世界の国際文化交流機関の歴史と役割 世界各国の国際文化交流機関の発展の歴史を概観するとともに、国際文化交流機関の意義と役割について考察する。			各国の国際文化交流機関のウェブサイト参照し、自習しておくこと。		60	
第6回	日本における国際文化交流の歴史 第2次世界大戦以降、現代に至るまで国家レベル、地方自治体レベル、民間団体（企業、財団、NPO など）による日本における国際文化交流の歴史を概観する。			国際文化交流の担い手別による、目的・手法などの違いを考えておくこと。		60	
第7回	国際交流基金の創設の歴史的背景と意義 日本における国際文化交流の中核機関としての国際交流基金の創設と歴史、その意義について考察する。			国際交流基金のウェブサイト参照し、活動内容等を把握しておくこと。		60	
第8回	国際交流基金の役割と活動事例 国際交流基金の活動の3つの柱である海外における日本語教育支援、文化芸術交流支援、日本研究支援及び知的交流支援に関する具体的事例を通じて、日本における国際文化交流機関の意義と役割について考察する。			国際交流基金のウェブサイト参照し、活動内容等を把握しておくこと。		60	
第9回	日本における多彩な国際文化交流活動の展開1（市民交流） 全国各地で取り組まれている多彩な国際文化交流活動の具体的事例について、映像を活用して考察する。			全国各地で、市民主体の多様な国際交流が実践されているが、自分に身近な市民主体の国際文化交流の経験や事例を考えておくこと。		60	
第10回	日本における多彩な国際文化交流活動の展開2（国際フェスティバルなど） 国際文化交流活動の一環として、全国各地で多彩な国際芸術フェスティバルが開催されているが、その意義と効果について具体的な事例を通じて考察する。			全国各地で、多様な国際フェスティバルが開催されているが、自分に身近な国際フェスティバルの事例を調べておくこと。		60	
第11回	文化の定義とその概念の広がり（英国の事例から） 英国では、文化の概念が広がっており、地域再生、医療・福祉、ダイバーシティに関連する社会的課題の解決に大きな役割を果たしていると考えられている。その動向と社会的背景を考察する。			文化の概念について整理しておくこと。		60	
第12回	文化多様性と多文化共生 グローバル化が進行している現代社会において、国内において、多様な文化背景を持った人々が一つのコミュニティでともに生活する多文化共生という概念、海外においては文化多様性という概念が重要となっている。その歴史的背景と概念について考察する。			参考文献、新聞やテレビ、ネットなどを通じて、関連するテーマについて情報を収集し、各自考えを整理しておくこと。		60	
第13回	国際文化交流における文化資本と社会資本 現在、経済的資本だけでなく、金銭以外の知識や教育、芸術などの文化資本、人的ネットワークを重視する社会資本といった			参考文献、新聞やテレビ、ネットなどを通じて、関連するテーマについて情報を収集し、各自考えを整理しておくこと。		60	

	概念が生まれてきていることから、国際文化交流の概念との関連を考察する。		
第 1 4 回	国際文化交流の未来 第 1 回から第 13 回までの講義の中で提示した国内外における多彩な国際文化交流の事例を振り返るとともに、これからの国際文化交流の在り方について各自の意見を整理する。	これまでの講義を振り返り、これからの国際文化交流の在り方と課題について各自の考えを整理しておくこと。	60
〔授業の方法〕 1. 授業は講義形式で行うが、多様な事例紹介のため映像を使用する。状況に応じて、質疑応答あるいは討論を歓迎する。国際文化交流は実践的な意味合いが強いので、自由に考えを発表する意欲を歓迎する。 2. 授業毎に、質問、意見、コメントを書いたレスポンス・ペーパーの提出を奨励し、次回フィードバックを行う。 3. 授業の進捗状況により、内容を一部変更することもありうる。			
〔成績評価の方法〕 期末レポート (50%)、平常点 (授業への参加状況やレスポンス・ペーパーの提出状況) (45%)、授業中の質問、発表等、積極的関与があれば適宜加点 (5%) する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着眼し、その達成度により評価する。 1. 国際文化交流に関する基礎的な知識を習得している。 2. 国際文化交流に関する最新の動向や理論を習得している。 3. 文化の特質について基礎的な概念を習得している。 4. 国際人として行動する上で必要となる文化多様性に関する基礎知識			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 世界史及び日本史の基礎的な知識、世界の文化、国際情勢に関する広範で偏らない知識を要する。			
〔テキスト〕 購入の必要はない。各講義の前に、各テーマに関するテキストを配布する。また、他に必要な文献資料等はその都度配布する。参考書籍に関しては、授業の進度にあわせてその都度紹介する。			
〔参考書〕 1. 『文化と外交 - パブリック・ディプロマシーの時代』渡辺靖著、中央公論新社、ISBN978-4-12-102133-5 2. 『<文化>を捉え直す：カルチュラル・セキュリティの発想』渡辺靖著、岩波書店、ISBN 978-4-00-431573-5 3. 『国際文化交流を实践する』国際交流基金編、白水社、ISBN 978-4-560-09797-7 4. 『アーティスト・イン・レジデンス：まち・人・アートをつなぐポテンシャル』菅野幸子・日沼禎子編、美学出版、ISBN 978-4-902078-77-			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 原則、授業終了後に教室で受け付ける。また、随時、電子メールでも受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		異文化理解トピックス（イスラーム世界）					
教員名		堀内 正樹					
科目No.	120821060	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 イスラームは「宗教」であると理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、多民族・多文化が共生する広大な社会空間の秩序維持ルールとして機能してきた。本授業では、「社会システム」としてのイスラームのあり方を理解してもらう。そのためにまずは西欧中心主義的な従来の世界史像を大胆に放棄し、本来の世界史の流れとその特徴を理解する。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、非境界的・脱国家的な本来の人間社会のあり方を、イスラームをモデルに探っていく。							
〔到達目標〕 DP2-1【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 1. イスラームを過大評価も過小評価もしないバランスのとれた理解に到達する。 2. 欧米の報道等によって形作られるイスラームへの偏見を自覚できるようになる。 3. 非境界的なイスラーム世界のあり方を理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	（概要説明）：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 （導入）イスラーム世界の旅（その1）			[予習]イスラーム世界の地理情報を地図上で確認しておく。		60	
第2回	（導入）イスラーム世界の旅（その2）			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		90	
第3回	（導入）イスラーム世界の旅（その3）			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		90	
第4回	旅人の世界としてのイスラーム世界 ・人、モノ、情報が行き交うこと。 ・「旅する人々」がもたらす現象。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第5回	イスラームの基礎知識(1) ・五柱について学修する。 ・イスラームの基本的な知識を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第6回	イスラームの基礎知識(2) ・六信について学修する。 ・「運命」とはなにかを理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第7回	イスラームの基礎知識(3) ・コーランとハディースの成り立ちと性格について学修する。 ・学問としてのイスラームの概要を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第8回	世界史認識の組み替え ・欧米中心主義史観の偏りと限界を理解する。 ・世界史の主潮流を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第9回	西欧近代とは何だったのか ・近代科学の核心としての数学基礎論を批判的に理解する。 ・境界的思考の特徴を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第10回	オリエンタリズム ・「オリエンタリズム」批判と構造主義を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第11回	中東のさまざまな人々 ・社会的境界の多様なあり方を学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第12回	パズール型社会システムと非境界型コミュニケーション ・多様な人々のつながり方のしくみを学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト			[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
第14回	到達度確認テストに関する質疑応答 現代の課題 ・20世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治・社会体制のジレンマを理解する。			[予習・復習]この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、疑問点などを整理しておく		120	
〔授業の方法〕 本授業は講義科目である。必要な PDF ファイルなどを CoursePower の「授業資料」にアップするので、毎回事前にダウンロードして、目を通しておくこと。受講生数が多い場合、本授業は一方的な講義になるかもしれないので、掲示板などのフィードバック手段を活用して、積極的に質問・反論・感想・要望・コメントなどを寄せてほしい。受講生とのインタラクションを通じて、講義内容を柔軟に変更していくことも考えている。 なお到達度確認テストでは、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。受講生数によってはレポートに切り							
〔成績評価の方法〕							

平常点で成績評価をおこなう。発言や質問・コメントなど授業への参加状況（５０％）、到達度確認テスト（５０％）などによる総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。
- ・「世界史」という考え方を理解し、説明できる。
- ・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

- （１）三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016 年、文藝春秋。
- （２）家島彦一『イスラーム世界の成立と国際商業-国際商業ネットワークの変動を中心に』1991 年、岩波書店。
- （３）ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987 年、リブレポート。
- （４）エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986 年、平凡社。
- （５）水野信男・西尾哲夫・堀内正樹（編）『アラブの音文化ーグローバル・コミュニケーションへのいざない』2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		地域福祉論					
教員名		姫野 宏輔					
科目No.	120830310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 日常生活の中で生きづらさを感じたとき、「自分で何とかする（自助）」か「政府や地方自治体などに助けてもらう（公助）」の二択で対応しようとする人は多いと思います。しかし、自助による福祉は明確に限界があり、公助による福祉は私たちのニーズ（必要）と乖離していることが少なくありません。 そこで本科目では、福祉学において主流化しつつある、私たちの生活に密着している地域社会を基盤として共助を進める、「地域福祉」の概念について基礎的な知識を学ぶとともに、皆さん一人ひとりの考える地域福祉のあり方を具体的に言語化することを練習していきます。 授業前半部は地域福祉の理論についての座学、後半部は実際に地域福祉に取り組んでいる実例の紹介を経て、最終的に受講生の皆さんには「自分が現在住んでいる地域における地域福祉のあり方」を独自に構想してもらい、レポートとして提出してもらう予定です。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （1）現代社会において地域福祉が主流化している現象の思想的な背景と経緯について、基本的な知識を身に付けて理解することができる。 （2）自分の身近な例から地域福祉の実践手法を考え、他者に説明して理解を求めることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「福祉」と「地域」			授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	地域福祉の思想的背景			授業中の配布資料を読み返し、共同体主義について理解を深める。		60	
第3回	地域福祉の歴史			授業中の配布資料を読み返し、世界と日本の地域福祉の歴史について理解を深める。		60	
第4回	地域福祉の法制度			授業中の配布資料を読み返し、地域包括ケアについて理解を深める。		60	
第5回	地域福祉の対象			授業中の配布資料を読み返し、地域福祉の視点から取り組むことが有効な社会問題について理解を深める。		60	
第6回	地域福祉の推進主体			授業中の配布資料を読み返し、社会福祉協議会などのフォーマルな団体について理解を深める。		60	
第7回	地域福祉の方法			授業中の配布資料を読み返し、コミュニティオーガニゼーションについて理解を深める。		60	
第8回	具体例から学ぶ（1）——高齢者福祉			授業中の配布資料を読み返し、愛知県大府市の例について理解を深める。		60	
第9回	具体例から学ぶ（2）——社会的孤立			授業中の配布資料を読み返し、東京都三鷹市の例について理解を深める。		60	
第10回	具体例から学ぶ（3）——マイノリティ			授業中の配布資料を読み返し、群馬県大泉町の例について理解を深める。		60	
第11回	具体例から学ぶ（4）——空き家の増加			授業中の配布資料を読み返し、岡山県岡山市の例について理解を深める。		60	
第12回	具体例から学ぶ（5）——買い物弱者			授業中の配布資料を読み返し、徳島県の例について理解を深める。		60	
第13回	地域福祉の未来——住民主体のまちづくり			授業中の配布資料を読み返し、地域住民参加型の活動の重要性について理解を深める。		60	
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて課題レポートを作成する。			これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕 本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回では毎回の授業終了時に、CoursePower からその授業に関するコメントを提出してもらいます。授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、最終回の第 14 回での課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 地域福祉の理論とその実践手法について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『ストーリーで学ぶ地域福祉』、加山弾・熊田博喜・中島修・山本美香、2020、有斐閣ストゥディア（ISBN-10：4641150753） ※購入の必要なし

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

この授業は対面授業で実施しますので、授業終了後に教室で受け付けます。また、教員への問い合わせ連絡先は初回授業資料に掲載します。

〔特記事項〕

科目名		人権とジェンダー					
教員名		嶺崎 寛子					
科目No.	120830410	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 ジェンダー学に関する基礎的な知識から学び、社会をより良くするため広い視野から思考し、判断する力の修得を目指します。「ジェンダー」を正しく理解し、日本の状況を知り、社会で働くうえで必要な実践的なコミュニケーション・スキルを学びます。さらに、世界のジェンダー問題から複眼的な視点で社会を見る力を養い、実学として「使える」ジェンダー論を身につけます。							
〔到達目標〕 ジェンダーは学際的かつ実用的な学問であり、個の視座を身につけることで人生を豊かにすることを目指す。 具体的には ディプロマポリシーの DP2-1 （人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。）を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクションとガイダンス			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 2 回	ジェンダーの定義 1：歴史的展開と第三世界へのまなざし			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 3 回	ジェンダーの定義 2：女性の分断			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 4 回	性別二元論の再考			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 5 回	「男らしさ」の陥穽と男同士の絆：男性ジェンダーを考える			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 6 回	デートDVを考える 1			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 7 回	デートDVを考える 2			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 8 回	LGBTQ+ 当事者および支援者のゲスト講義			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 9 回	感情労働とケア・キティの議論から考える			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 1 0 回	アサーティブ・コミュニケーション			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 1 1 回	日本の司法制度とジェンダー			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 1 2 回	性産業を考える			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	
第 1 3 回	授業内確認テスト			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		4 0 分	

第 1 4 回	全体のまとめ	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	4 0 分
〔授業の方法〕 コメントペーパーの内容は匿名処理ののち授業で紹介し、論点を共有します。 質問や疑問は何らかの形で講義の中でフィードバックします。 授業はいわば「ライブ」なので、学生の要望に応じて臨機応変に進めます。シラバスは絶対ではありません（評価方法については厳密に運用します）。このテーマを取り上げてほしい、などの要望があればぜひ教えてください。 デート DV 回はゲスト講師をお迎えする関係上、他の回と前後することがあります。			
〔成績評価の方法〕 授業内確認テスト（70％）、平常点（授業への参加状況・リアクションペーパーの内容と提出状況、30％）。 毎回リアクションペーパーを書いていただきます。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。ジェンダーに関心のある学生を歓迎します。学修時間は目安です。関心がある方はぜひ、図書館を積極的に使い、関連文献に目を通すなど、積極的に学修を行ってください。そういう学生は必然的に、学修時間を超えて学ぶことになるでしょう。			
〔テキスト〕 特になし。			
〔参考書〕 理論書としては ・ 加藤秀一、1998 年『性現象論』、勁草書房 ・ 加藤秀一、2006 年『ジェンダー入門』、朝日新聞社 ・ ジュディス・バトラー1999 年『ジェンダー・トラブル』青土社 ・ ミシェル・フーコー『性の歴史』1～4 巻 ・ エヴァ・フェダー・キティ 2010 年『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』、白澤社など。 授業内で適宜参考文献を提示します。自発的に参考文献を紐解き、知の森に冒険に出かける気概を持ってください。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。 メールアドレスは講義時にお知らせします。メールでの相談も受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		こころの健康と臨床<1>					
教員名		石川 千春					
科目No.	120830510	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 近年、こころの健康問題はわが国においても社会的な課題となっている。多様性を増し、予測が難しい社会において、人々はどうのようにこころの健康を維持したり守ったり改善させたりするのだろうか。このような観点から人間を理解することは、自分自身のこころの健康を支え、周囲の人とよりよく関わり、学生生活や社会活動を行う上でも重要であろう。本講義では、こころの健康問題を理解するため、臨床心理学や精神医学で扱われる諸問題を取り上げ、代表的な理論や予防策・対応策を紹介する。また、担当教員の医学領域・教育領域での臨床心理士・公認心理師としての実務経験を踏まえ、認知行動療法を中心としたアプローチやライフサイクルに応じた課題等について講義を行う予定である。 ※授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。 （１）こころの健康問題に関する正しい知識を学ぶことを通して自己の誤解や偏見に気づき、問題の本質を理解すること （２）こころの健康問題に関する多様な状態や対処法について説明できること （３）自他のこころの健康問題で困った際に、それを軽減するための実践について考察すること							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション ・授業の内容、進め方等について説明を受け、本講義の趣旨を理解する。 ・近年のこころの健康問題について概観を知る。			【予習】シラバスに目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。		【復習】 60	
第 2 回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（１） ・こころの健康―不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みについて理解する。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 3 回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（２） ・こころの問題を理解するための代表的枠組みについて理解する（続き）。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 4 回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（３） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 5 回	気分障害（１） ・うつ病について理解する。 ・日常的に体験する「気分の落ち込み」と「うつ病」の異動を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 6 回	気分障害（２） ・双極性障害について理解する。 ・気分障害における予防法・対処法を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 7 回	不安障害（１） ・社交不安症について理解する。 ・不安のメカニズムについて学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 8 回	不安障害（２） ・パニック症について理解する。 ・不安に対するアプローチについて知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 9 回	不安障害（３） ・強迫性障害について理解する。 ・強迫性障害に対するアプローチの実践例を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 0 回	心的外傷後ストレス障害（PTSD） ・PTSDについて理解する。 ・トラウマの体験に対する対処や支援について学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 1 回	ストレスと心身症 ・ストレスが心身に及ぼす影響について理解する。 ・ストレスマネジメントのための実践的な方法を学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 2 回	パーソナリティとパーソナリティ障害 ・パーソリティとは何かについて理解する。 ・パーソナリティ障害とそのアセスメントや対処法について学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 3 回	発達に関する障害の理解と支援 ・発達障害の概要について理解する。 ・支援の実践について事例から学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 4 回	ライフサイクルにおけるこころの健康問題 ・ライフサイクルの各段階におけるこころの健康と課題について理解する。 ・本講義のまとめ：自己と他者のこころの健康について考察する。			【予習】授業内容全体を復習し、質問があれば用意しておく。 【復習】本講義で学んだことを振り返り、こころの健康についての考えを深める。		【予習】 30 【復習】 30	
〔授業の方法〕							

※受講人数によっては、以下の方法を多少変更する場合がある。

講義を中心に進めるが、小規模なワーク・ディスカッションを行う予定である。受講者は毎授業後にコメントシートを提出し、これが平常点に含まれる。加えて、小テストと期末レポートを課す。復習に力を入れ、学んだ内容の整理を行うこと。上で示した準備学修の時間は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。

各課題の目的は以下の通りである：

(1) コメントシート：各授業を通し

〔成績評価の方法〕

- ・参加状況・コメントシートの提出による平常点 (40%)
- ・小テスト (20%)
- ・期末レポート (40%)

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、到達度によって評価する。

- (1) こころの健康問題に関する正しい知識を得て、理解したことを伝達できること
- (2) こころの健康問題とその予防法や対応方法を関連づけて説明できること
- (3) 自分や他者のこころの健康を保つための姿勢や行動を考えること

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心

〔テキスト〕

※ 講義のスライドや資料の配布は CoursePower を通して行う。

※ 購入の必要なし

- ・『臨床心理学 (New Liberal Arts Selection)』(丹野義彦他, 2015) 有斐閣

〔参考書〕

※ 購入の必要なし

- ・『公認心理師をめざす人のための臨床心理学入門』（末木新, 2021）大修館書店

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		こころの健康と臨床＜2＞					
教員名		林 潤一郎					
科目No.	120830610	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 近年、こころの健康問題は社会的に大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。 本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な知見を、担当教員のカウンセラーとしての実務経験も踏まえて紹介する予定である。 なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。 （１）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。 （２）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。 （３）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・こころの健康問題の概観を知る。			【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。		【復習】 60	
第 2 回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（１） ・こころの健康―不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 3 回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（２） ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る（続き）。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 4 回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（３） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 5 回	気分障害（１） ・気分障害を理解する。 ・「日常的に経験する（抑うつ気分）」と「うつ病」の異同を知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 6 回	気分障害（２） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 7 回	気分障害（３） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 8 回	睡眠障害 ・睡眠の基本性質を知る。 ・睡眠障害を理解する。 ・睡眠障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 9 回	不安障害（１） ・パニック障害を理解する。 ・パニック障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 0 回	不安障害（２） ・社会不安障害（社交不安障害）を理解する。 ・社会不安障害（社交不安障害）で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 1 回	不安障害（３） ・強迫性障害を理解する。 ・強迫性障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 2 回	パーソナリティ障害 ・パーソナリティ障害を理解する。 ・パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	
第 1 3 回	摂食障害 ・摂食障害を理解する。 ・摂食障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】 10 【復習】 50	

第 1 4 回	統合失調症 ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
〔授業の方法〕 本講義は対面形式で実施し、授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。期末テストを実施する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。 なお、レスポンスシート、確認ミニテスト、期末レポートの狙いは以下のとおりである。 ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じた			
〔成績評価の方法〕 授業への参加状況・確認ミニテスト・レスポンスシートの提出状況などの平常点（60％：内訳は出席およびレスポンスシート約 30％、確認ミニテスト約 30％）、期末テスト（40％）、により総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 （1）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。 （2）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。 （3）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパトリーを学ぶこと。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心			
〔テキスト〕 特になし。なお、各回のレジュメは Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。			
〔参考書〕 特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		高齢者福祉論					
教員名		姫野 宏輔					
科目No.	120830710	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 本科目は、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、それはなぜなのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。人類史を通じて見ても稀な超高齢化社会に突入している日本社会は、どのような社会デザインを描くべきでしょうか。 この授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。 今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （1）老いがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。 （2）自分の身の回りで起こっている老いと社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分で考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「老い」とは何か			復習・授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	老いとディスアビリティ（1）			復習・授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティ概念について理解を深める。		60	
第3回	老いとディスアビリティ（2）			自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60	
第4回	老いと家族・血縁（1）			復習・授業中の配布資料を読み返し、家族・親族によって支えられてきた高齢者福祉の歴史について理解を深める。		60	
第5回	老いと家族・血縁（2）			自分の家族・親族が老いのもたらす社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60	
第6回	老いと人間関係（1）			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと社会的孤立の相関関係について理解を深める。		60	
第7回	老いと人間関係（2）			自分ならば、老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。		60	
第8回	老いと経済・年金（1）			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと経済活動の関係性について理解を深める。		60	
第9回	老いと経済・年金（2）			老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、自分ならばどのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。		60	
第10回	老いと世代間格差（1）			復習・授業中の配布資料を読み返し、少子化と労働力人口の減少について理解を深める。		60	
第11回	老いと世代間格差（2）			若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。		60	
第12回	老いと自己決定（1）			復習・授業中の配布資料を読み返し、ケイバビリティ・アプローチから自己決定の問題の要点を理解する。		60	
第13回	老いと自己決定（2）			「自己決定」を支援する福祉制度のありかたについて、自分なりに考えてみる。		60	
第14回	授業の総括			少子高齢化が進展する社会において、望ましい社会デザインを自分なりに考えてみる。		30	
〔授業の方法〕							

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ→(後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントを提出してもらいます。絶対に「正しい」解決策はありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

〔成績評価の方法〕

2回の授業ごとに課される毎回のコメント(CoursePower から提出)を平常点として50%、第14回授業時に課す課題レポート(これも CoursePower から提出)を到達度の確認として50%の配分で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第1回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

科目名		福祉社会に生きる					
教員名		姫野 宏輔					
科目No.	120830810	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 本科目は、現代社会におけるさまざまな社会福祉政策について、武川正吾『福祉社会——包摂の社会政策』（有斐閣）をテキストに用いて学んでいきます。少子高齢化の進展は、社会のメンバーの中に、ケアや支援を必要とする人の増加をもたらしますが、社会福祉政策の対象は高齢者に限りません。どのような人たちに支援が必要なのか、なぜ必要なのか、「そもそも」論に立ち戻って考えることをこの授業では重視します。そこで各回の授業計画に掲載しているような「問い」を設定し、これらの問いに対して、社会学（特に福祉社会学）的な観点から考える視点・思考方法を紹介します。受講者には福祉社会を「自分とは縁遠いもの」として考えるのではなく、網の目のように設計された現在の福祉社会の中に自分を位置づけ、今後どのような社会像を描けばよいか、自分自身で考えてもらうことを重視します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （1）現代の福祉社会の設計とその思想的背景について、基本的な知識を身に着けて理解することができる。 （2）現代の福祉社会の抱える問題について理解し、自分の言葉でそれを説明し、将来の方向性について考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「福祉」とは何か			授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	排除と包摂（1）——社会の中のマイノリティは誰か			授業中の配布資料を読み返し、排除と包摂の概念について理解を深める。		60	
第3回	排除と包摂（2）——ディスアビリティを作り出しているのは何か			授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティの概念について理解を深める。		60	
第4回	「ニーズ（必要）」と「ダイヤモンド（需要）」——支援を必要とする人は誰か			授業中の配布資料を読み返し、福祉制度における必要と需要を把握することについて理解を深める。		60	
第5回	資源の再分配——どうやって「公平な社会」を作るのか			授業中の配布資料を読み返し、福祉社会における資源の再分配と公共哲学の理論について理解を深める。		60	
第6回	専門主義と官僚制——福祉制度の設計は専門家に任せるべきなのか			授業中の配布資料を読み返し、福祉制度の設計とその思想的背景について理解を深める。		60	
第7回	到達度の確認 ・第2回～第5回の授業の内容にもとづいて中間レポートを作成する。			第2回～第5回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
第8回	福祉国家の分類——どのような福祉社会がありうるか			授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の類型とその代表的な例について理解を深める。		60	
第9回	福祉国家の国家間比較（1）——アメリカの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、アメリカ合衆国のウェルフェア・キャピタリズムについて理解を深める。		60	
第10回	福祉国家の国家間比較（2）——ドイツの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、ドイツの社会保険政策と相互扶助について理解を深める。		60	
第11回	福祉国家の国家間比較（3）——スウェーデンの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、スウェーデンの社会政策と現代の問題点について理解を深める。		60	
第12回	多様化する福祉の担い手（1）——グローバル化は社会をどう変えるか			授業中の配布資料を読み返し、グローバル化が社会にもたらす変化について理解を深める。		60	
第13回	多様化する福祉の担い手（2）——ジェンダー主流化は社会をどう変えるか			授業中の配布資料を読み返し、ジェンダー主流化が社会にもたらす変化について理解を深める。		60	
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて最終課題レポートを作成する。			これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕 本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回（第2回～第6回、第8回～第13回）では毎回の授業終了時に、CoursePowerを用いてその授業に関するコメントを提出してもらいます。また、第7回・第14回では、それまでの授業の内容についての理解度を確認する中間レポート・課題レポートをこれもCoursePowerから提出してもらいます。授業内容を丸暗記するのではなく、授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、授業第 7 回の中間レポートと授業第 14 回の課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
福祉社会の設計とその思想的な背景について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
『福祉社会——包摂の社会政策（新版）』武川正吾、2011、有斐閣アルマ（ISBN・10: 464112406X） ※購入の必要なし

〔参考書〕
特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

科目名		共生社会トピックス（日本女性史）					
教員名		酒井 晃					
科目No.	120831110	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】日本近現代史における「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様 【概要】20 世紀日本を対象とし、女性史・ジェンダー史の観点から、「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様について考える。本講義では、時代の要請によっていかに性差が形作られるかを理解する。その際、政治・経済・社会・文化・思想を横断的に論じ、現在を生きる私たちとの共通点と相違点を考察することを目的とする。							
〔到達目標〕 ・20 世紀日本における「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様を時代状況のなかから理解することができる ・歴史を踏まえて、現在との共通点と相違点を理解し、現在のジェンダーをめぐる問題について、自分の言葉で発することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する。		60	
第 2 回	「国民化」とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 3 回	デモクラシーと「新しい女」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 4 回	近代家族の形成			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 5 回	戦争と「男らしさ」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 6 回	戦争と「女らしさ」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 7 回	敗戦とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 8 回	特論（1）植民地とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 9 回	冷戦体制の構築とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 0 回	高度経済成長と性別役割分業の広がり			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 1 回	ウーマン・リヴの胎動			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 2 回	男女共同参加社会とは何か			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 3 回	特論（2）記憶をめぐる抗争——日本軍「慰安婦」論争			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 4 回	まとめ			【予習】これまでの授業を振り返る。 【復習】授業全体を復習する		60	
〔授業の方法〕 スライドおよび配布資料をもとに、講義形式で実施する。 講義は通史的な回と高校までの歴史教科書ではあまり取り上げられていないテーマを用いる回（特論）に分かれている。 なお、通史部分の対象時期はおおむね第 2 回～第 4 回が明治期（19 世紀中盤から 20 世紀前半）、戦前期（1910 年～1930 年代初期）、第 5 回～第 7 回が戦時・占領期（1930 年代～1950 年代初期）、第 9 回～第 12 回が戦後（1950 年代以降）である。また、受講生の関心によって、多少の変更をおこなう場合もある。							
〔成績評価の方法〕 ①リアクションペーパーの内容（40 点） ②到達度確認テスト（60 点） 計：100 点満点							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特に指定しない
〔参考書〕 久留島典子ほか編『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（大月書店、2015 年） 山口みどりほか編『論点 ジェンダー史学』（ミネルヴァ書房、2023 年） ※購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 また、授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		共生社会トピックス（アートと社会）					
教員名		横原 彩					
科目No.	120831120	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 「アートプロジェクト」という言葉を耳にしたことはありますか？ 「アートプロジェクト」とは、おもに 1990 年代以降、日本各地で展開されている共創的芸術活動のことです。「アートプロジェクト」は現代美術にダンス、音楽、演劇など、さまざまな芸術ジャンルで織りなされています。大きな特徴としては、アーティストたちが、美術館や公共ホールなどの施設から飛び出して、野外やまちなか、廃校、廃屋、古民家などで展覧会や演奏会をおこなっていること、さまざまな属性の人びとが関わるコラボレーションと、それを誘発するコミュニケーションが生じていること、作品を展示や上演するだけでなく、多彩な社会的事象と関わりながら展開されていることです。特に近年では、拠点づくりやコミュニティの課題を解決するための社会実験的な活動、芸術以外の社会的包摂や教育、医療などの分野まで、その影響が波及しています。 本授業では、実際におこなわれている多様な「アートプロジェクト」の実践を紹介し、「芸術と社会の関係性」について思いを巡らせながら、考察を重ねていきます。							
〔到達目標〕 アートプロジェクトの実践事例を学び、以下の視座を獲得することを目指します。 ①「芸術」との関わり方は、「制作する」「鑑賞する」だけではないことを知る。 ②「芸術」と「社会」の間にある関係性をふりかえり、「芸術」は芸術家やアーティスト、愛好家など限られた人々だけのものではなく、自分自身もその主体であるという意識を持つ。 ③「芸術」を通して社会の課題を解決するという観点について、自分自身の視座を見出す。 これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP4 を実現します。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60	
第 2 回	アートプロジェクトとは 【内容】 アートプロジェクト概説 アートプロジェクトの現在			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 3 回	地域とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 地域の課題に向き合うアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 4 回	地域とアートプロジェクト：理論編 【内容】 地域の課題に向き合うアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 5 回	まちづくりとアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 まちづくりと連携するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 6 回	まちづくりとアートプロジェクト：理論編 【内容】 まちづくりと連携するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 7 回	教育とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 教育現場と連携するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 8 回	教育とアートプロジェクト：理論編 【内容】 教育現場と連携するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 9 回	社会包摂とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 社会包摂の取り組みを実践するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 10 回	社会包摂とアートプロジェクト：理論編 【内容】 社会包摂の取り組みを実践するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 11 回	多文化共生とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 多文化共生的取り組みを実践するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 12 回	多文化共生とアートプロジェクト：理論編 【内容】 多文化共生的取り組みを実践するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	

第 13 回	震災とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 震災復興や防災領域と連携するアートプロジェクトの事例を紹介する。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第 14 回	震災とアートプロジェクト：理論編 【内容】 震災復興や防災領域と連携するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
〔授業の方法〕 授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。 また、課題レポートの執筆を通して調査研究の実践を経験し、期末レポートの執筆によって、知識の定着と自身の興味関心の拠り所を言語化する技術を習得する。 ※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。 ※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。 ※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用			
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50% 課題レポート：20% 期末レポート：30% ※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの「注意事項」を要参照のこと。 ※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/1）			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①「芸術」と「社会」の関係性について、自分自身で課題を見出すことができるか。 ②自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』熊倉純子監修、水曜社、本体 3,200 円＋税、9784880653334 ※購入の必要なし 『アートプロジェクトのピアレビュー 対話と支え合いの評価手法』熊倉純子・槇原彩編、水曜社、本体 1,600 円＋税、9784880654812 ※購入の必要なし 「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990 年→2012 年」補遺 URL：https://tarl.jp/archive/art_projects_history_japan_1990_2012_hoi			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング			

科目名		武蔵野地域研究					
教員名		澁谷 智子					
科目No.	120840510	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 この授業では、武蔵野市やその近隣地域で活動しておられる組織や団体のご協力のもと、実際の活動に根差した知見を共有して頂く形で学ぶ。関心のある学生がいれば、団体のイベントや日常の活動にボランティアとして参加させて頂くこともある。今年度は、特に子ども・若者支援や子育て支援を中心として活動しておられる方々に、ゲストとしておいで頂く。実際に見たり聞いたりする中から、体験的に学び、武蔵野地域についての理解を深めることが、この授業の狙いである。							
〔到達目標〕 DP 1「専門分野の知識・技能」、DP 3「課題の発見と解決」、DP 4「表現力、発信力」、DP 5「多様な人々との協働」、DP 6「自発性、積極性」を実現するため、以下の 2 点を到達目標とする。 ①子どものライフステージやニーズに応じた教育や支援のあり方を知る。 ②特に関心を持ったテーマについて、さらに調べ、分析し、その内容と自らの意見を他の人にもわかりやすく伝える。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			ヤングケアラーや社会福祉協議会について調べる。		60	
第 2 回	ヤングケアラー			ヤングケアラー支援について調べる。		60	
第 3 回	児童館			中高生を対象とした児童館「ゆう杉並」など、地域の子どもの居場所について調べる。		60	
第 4 回	きょうだい児			障害のあるきょうだいを持つ、きょうだい児への支援について調べる。		60	
第 5 回	幼児教育			武蔵野東第一幼稚園第二幼稚園の教育を参考に、幼児教育について調べる。		60	
第 6 回	調べてきたことの発表①			授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをスライドにまとめ、発表原稿を作る。		60	
第 7 回	子ども食堂 保護司			地域の子ども食堂や学習支援教室、保護司の活動などについて調べる。		60	
第 8 回	共働きについて			生活時間について調べる。		60	
第 9 回	外国につながる子どもたち			外国につながる子どもたちについて調べる。		60	
第 1 0 回	調べてきたことの発表②			授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをスライドにまとめ、発表原稿を作る。		60	
第 1 1 回	不登校の子ども			不登校の子どもへの支援について調べる。		60	
第 1 2 回	メンタルヘルス			メンタルに不調を感じる人への支援について調べる。		60	
第 1 3 回	親への支援			武蔵野市の乳幼児支援などについて調べる。		60	
第 1 4 回	調べてきたことの発表③ まとめ			授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをスライドにまとめ、発表原稿を作る。		60	
〔授業の方法〕 授業では、スライドやウェブページを用いて講義を行った上で、子ども・若者支援や子育て支援の分野で活動する方々において頂き、そのお話を記録する。そうした学びをふまえて、さらに自分でも調べた内容を、スライドや発表原稿にまとめ、授業で発表する。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への参加状況や課題、発表）100%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 授業で配布するプリント
〔参考書〕 ジェームズ・J・ヘックマン著，大竹文雄解説，古草秀子訳，2015，『幼児教育の経済学』東洋経済新聞社（1600 円＋税、ISBN978-4-492-31463-0）．など 購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名	武蔵野地域連携セミナー（ルーマニア語入門）						
教員名	関口 コルネリア ラルカ						
科目No.	120841020	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期
〔テーマ・概要〕 Many people are surprised to find that Romanian is a Latin language, belonging to the same family as French, Italian, Spanish and Portuguese. This is because Romania is tucked away in South-Eastern Europe, surrounded by non-Latin languages such as Hungarian, Ukrainian, Serbo-Croatian and Bulgarian. Its grammar is almost entirely Latin, and it shares many words with the other Latin languages, especially with French (and Italian). For example, forms as "unu, doi"(one, two) or mare (sea), nostru (our) are instantly recognizable. There is an overlay of Slavic words, and this influence is most evident in the use of "da"(yes) together with "nu"(no) originated in Latin. The basic word order of Romanian is: subject-verb-object: "Ion are o carte" (John has a book). The language is not difficult to pronounce. What you see written down is what you hear. Romanians are delighted with those to speak their language and are therefore most tolerant of any grammatical errors made, so do not be afraid to take advantage of this course and launch yourself on a journey that will enable you to explore a vibrant people and culture.							
〔到達目標〕 The student learns about Romanian history, culture and society. The student can understand and use familiar everyday phrases. Knows a few basic words and phrases in Romanian, can initiate a short conversation with one verb sentences. Can do a self introd							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	Basic information about Romania. Watching 10 minutes video. The alphabet and common phrases.: greetings.			check out the syllabus.		60minutes	
第2回	More about Romania. personal pronouns Verbs in the Present Indicative: "a fi"(to be), "a avea"(to have). Numbers 1-10. Phrases of self introduction: De unde esti?; Ce limba vorbesti?; Unde locuiesti? verbs: a fi (to be), to have (a avea).			Review the information given during the previous lesson.		60 minutes	
第3回	Adjectives designating Nationalities. Phrases of understanding: nu înțeleg, poti sa repeti?; vorbeste mai rar te rog. The verbs: a vorbi (to speak); a înțelege (to understand), a locui (to live),			Homework. Review the information given during the previous lesson.		60 minutes	
第4回	Numbers. The verb a avea (to have) Phrases of understanding: nu înțeleg, poti sa repeti?; vorbeste mai rar te rog.			Homework. Review the information given during the previous lesson.		60 minutes	
第5回	Getting directions: Cum pot să ajung la Piața Universității? Unde este gara? Mergeți drept înainte. Traversați strada. Asking for apologies: Imi cer scuize, Imi pare rau, Pardon.			Homework. Review the information given during the previous lesson.		60 minutes	
第6回	Review of lessons 2-5 The free time, hobbies, weather The verbs: a lua (to take), a merge (to go), a vrea (to want), a ști (to know).			Review the information given during the lessons 2-5. Identify areas that need improvement.		60 minutes	
第7回	The verbs "a": a lucra (to work), a studia (to study). "a citi (to read), a vorbi (to speak). Phrases about work: Unde lucrați? Ce profesie aveți? Farewell phrases: O zi buna (Have a nice day); Drum bun (have a nice trip); zbor placut (have a good flight)			Homework. Review the information given during the previous lesson.		60 minutes	
第8回	Review the new verbes. Colors. Care este culoarea ta preferata?(What is your favorite color?) the adjectives			Review the information given during the lessons 6-8. Identify areas that need improvement.		60 minutes	
第9回	Days, months, seasons, weather, the parts of a day. Ce zi e azi? (What day is today?), Ce data e/este azi?(What date is today?) Cand este ziua ta de nastere? (When is your birthday?) Numerals from 1-10 and 11-20			Homework. Review the information given during the previous lesson.		60 minutes	
第10回	Review of lessons 6-9 Numerals from 1-10 and 11-20 and up to one milion. What time is it? The plural of the nouns.			Homework. Review the information given during the lessons 6-9. Identify areas that need improvement.		60 minutes	

第 1 1 回	Daily activities: La ce ora mergi la Universitate? (What time do you go to the University). Cand incepi cursurile (When do you start classes?) Expressions of approval: bineinteles (Of course), este corect, este adevarat (It is true).	Homework. Review the information given during the previous lesson.	60 minutes.
第 1 2 回	On the vacation. About Romanian Christmas. Watch 10-15 minutes video. Means of transportation. Verbs: a se plimba (to take a walk), a vizita (to visit).	Homework. Review the information given during the previous lesson.	60 minutes.
第 1 3 回	Going shopping.: fruit, vegetables, books. What would you like to eat: breakfast, lunch, dinner. At the restaurant. Verbs: a manaca (to eat,), a cumpara (to buy), a bea (to drink).	Homework. Review the information given during the previous lesson.	60 minutes
第 1 4 回	Review of lessons 2-13 Quiz about Romania Evaluation	Evaluate the homework, the classroom activity and the students language abilities	60 minutes.
〔授業の方法〕 100 minutes. interactive: 15 minutes talk about Romanian culture, history, traditions and society 25 minutes check homework and review the things learned during the previous lesson. 40 minutes introduce the new information and practice new language sk			
〔成績評価の方法〕 Classroom: classroom participation 40%, homework (40%) and mini speaking test on the last day of the course (20%).			
〔成績評価の基準〕 Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 No prerequisites required.			
〔テキスト〕 Learn Romanian / Mona Moldoveanu Pologea, Bucuresti: Rolang. 2 vol. ISBN 978-606-93737-0-5 website: http://rolang.ro audio files link: http://rolang.ro/manual-audio .			
〔参考書〕 ゼロから ルーマニア語 アンカ フォクシェネアス 飯森伸哉 . ISBN978-4-384-05488-0 C0087			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 Questions are accepted immediately before, during and after class. Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.			
〔特記事項〕 -			

※取組形式は、以下のとおりです。※

科目名		武蔵野地域連携セミナー（「おもてなし」のルーマニア語）					
教員名		シェルブレア ミハエラ					
科目No.	120841030	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期
〔テーマ・概要〕 簡単なルーマニア語で自己紹介できる、町案内ができる、ルーマニア語での数字、家族、挨拶などを学ぶ。 授業中に生徒同士でペアを組んで、会話の練習をする。 用語が増えるにつれて、自分たちで文章を作り、授業中で訂正し、覚える。							
〔到達目標〕 ルーマニア語を通して、多文化に振れる、国際的な知識を深める							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	自己紹介、なぜルーマニア語を選んだか ルーマニアはどこ、どんな国？ ルーマニア語はどんな言語？			地図を見る		15 分程度	
第 2 回	数字（誕生日、時間、値段など）			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 3 回	勉強、科目、趣味（色、形容詞など）			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 4 回	道案内、主な建物、町を歩く			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 5 回	お店に行く、買い物			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 6 回	日常生活（食べる、飲む）身体について、ケガ、病気			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 7 回	家族について、出身地			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 8 回	天気、形容詞、スポーツ			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 9 回	ことわざ			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 1 0 回	食べもの			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 1 1 回	ルーマニアの歴史			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 1 2 回	生活習慣、文化的アドバイス			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 1 3 回	まとめ、復習、発表練習			前回のノートを振り返り		15 分程度	
第 1 4 回	発表（テスト）＆評価			前回のノートを振り返り		15 分程度	
〔授業の方法〕 授業中に生徒同士でペアを組んで、会話の練習をする。 まずは語彙を増やし、 語彙が増えるにつれて、生徒たち自身で文章を作り、授業の場で訂正し、覚える。 発音の練習たくさん行う							
〔成績評価の方法〕 授業中の参加状態、ノートの取り方 8 0 % テスト（発表） 2 0 %							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕